

富山縣米穀檢查所令規類聚

264

439

訂正表

頁目	訂正事項
三	七行目件名ノ下「二十七」ヲ「二十八」トス
同	八行目件名ノ下「二十八」ヲ「二十九」トス
六	十二行目件名中「受」ヲ「交」トス
五	第二十三條中「周圍二尺以上」ヲ「二寸以上」トス
同	下段三行目「拾圓」ヲ「五拾圓」トス
二十一	下段一行目「點燈」ヲ「點火」トス
二十二	下段八行目「勸」ヲ「鋤」トス
二十三	下段田稗採取ノ件本文中括弧内ノ「稗」ヲ「稗」トス
二十七	上段第四條中「違背シタ」ノ下ニ「ル」ノ一字ヲ加フ
三十九	第十六條ノ次ニ「(第一號書式)」ノ五字ヲ加フ
五十七	検査員駐在所欄及其下欄ニ「填生村」ヲ「埴生村」トス
五十八	出張所名稱欄ニ「福岡出張所」ノ五字ヲ位置欄ニ「西礪波郡福岡町」ノ七字ヲ加フ
六十八	第七條検査員ノ下「検査」ノ二字ヲ削ル
六十八	十號表目「堆肥」ノ下ニ「同翌年一月末日限り」ノ九字ヲ加フ
六十九	富山縣處務細則ノ下括弧内ノ「四十一年」ヲ「四十年」トス
七十五	七行目「意見」ヲ「意義」トス
八十六	上段米穀検査監督上ニ關スル件本文中「捺印」ノ下ニ「致」ノ一字ヲ加フ
八十七	下段十三行目「何十何俵ノ内何俵」ノ下ニ「ハ」ノ一字ヲ加フ
八十九	上段助手名札ノ次ニアル名札ヲ削ル
九十	名札ヲ削ル
同	件名ノ下括弧内ノ「三米檢收第三一五五號ノ二」ノ十二字ヲ削リ件名ノ肩ニ「三米檢收第三一五五號ノ二」ノ十二字ヲ加フ
別表二號	目題字中「續」ヲ「續」トス
九十八	(一)ノ行中「敷」ヲ「敷」トス
同	下段米作豫想高報告本文頭初ニ「稻米」ヲ「稻禾」トス
百	「各出張所主任」ヲ「各出張所主任」トス
百二	備考文中「地上糠等ヲ遍布」ヲ「(地上糠等ヲ遍布)ノ類」トス
百四	検査手数料領收證票ノ雛形ハ左ニ之ヲ訂正ス
百十一	表中區別ノ各欄ノ括弧ヲ削ル

○ 邦貨調製ノ種リ切取キ五百圓ニ程度ノ時付ノコト

米穀検査材料券 券名 明治何年何月何日 月日 明治何年何月何日 番号 何 号		金額 何 程 <small>主仕者印</small>	人納 何 某	明治何年何月何日使用済 <small>取印</small>
物原票券 第 何 號 明治何年何月何日 出納更印		金額 何 程 <small>主仕者印</small>	人納 何 某	取印

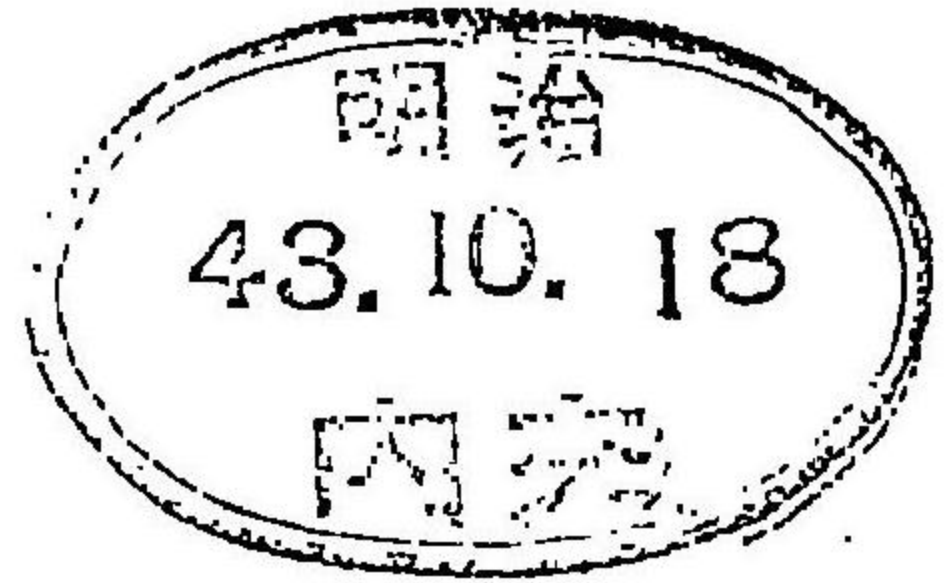
03  
1481  
46-01

富山縣米穀檢查所令規類聚目次

檢 査

同	縣明	治三十七年二月	米穀檢查規則	一
同	縣令	第三十七號	米穀檢查規則	一
同	達	第三十九號	米穀檢查施行手續	七
同	告	第三十八年一月	米穀檢查規則發布ニ關スル件	八
同	諭	第三十八年一月	米穀検査規則發布ニ關スル件	八
同	同	第三十九年十二月	俵米容量正確ニ關スル件	九
同	同	第三十九年十二月	米穀検査ニ關スル件	十
同	同	第三十八年十一月	米穀集合検査ニ關スル件	十一
同	訓令	第三十八年十一月	産米改良及集合検査ニ關スル件	十二
同	同	第三十九年八月	容量秤量調査ノ件	十二
同	同	第三十九年三月	容量秤量調査ノ件	十二

一頁 七 八 九 十 十一 十二



獎勵

訓令 甲四十二年四月號	米穀検査員米作獎勵規程	十五
同 米發第一七七號	米作獎勵規程ニ關シ注意方ノ件	十五
訓令 甲四十二年八月號	稻種塩水撰獎勵ノ件	十六
同 令 第三十八年四月號	短冊形共同稻苗代設置規程	十七
同 內米收第一三三號ノ二	稻田正條植獎勵ニ關スル件	十八
同 令 第二十九年八月號	害虫驅除豫防施行法規則	十八
同 第三十三年三月號	害虫ノ種類及驅除豫防方法	二十
同 第三十四年五月號	苗代田害虫驅除豫防ノ件	二十三
同 第三十年六月號	田稗採取ノ件	二十三
同 內米收第一三二號ノ二	稗ノ混植ヲ廢止セシムル件	二十三
同 令 第四十二年八月號	耕地障害木取締規程	二十四

庶務

同 令 第三十六年十二月號	障害木代採ニ關スル件	二十四
同 令 第三十六年十二月號	農事改良ニ關スル件	二十五
同 令 第三十年四月號	堆肥製造獎勵規程	二十五
同 第三十六年十二月號	米穀乾燥取締規程	二十六
同 第三十九年八月號	米穀乾燥ニ關スル件	二十七
同 第三十八年七月號	米穀乾燥ニ關スル件	二十七
同 第四十年八月號	米穀乾燥ニ關スル件	二十七
同 第三十八年七月號	産米改良ニ關スル件	二十八
同 第三十九年九月號	堤塘上ノ樹木稻架干用トシテ使用ノ件	二十九
同 令 第三十七年十一月號	勸業委員設置ノ件	三十
訓令 甲四十一年五月號	判任待遇者及無待遇者懲戒令ノ件	三十三



明治四十一年四月  
内米檢發第一〇六號 精米搗減並ニ貯藏米ニ對スル損害調査ノ件

百一

會計

明治三十七年七月  
縣令第三十八號 富山縣米穀検査所職員俸給表

百二

同 第三十九年十二月  
同 第五十五號 米穀検査員及米穀検査所書記俸給支給規則

百三

同 第三十八年七月  
同 第三十二號 米穀検査手數料納付手續

百三

訓令 甲第四十三號  
同 米穀検査手數料取扱方

百五

同 第三年 三一號  
同 米穀検査手數料領收證票再發取扱方

百十

同 第二十八號  
同 米穀検査所職員旅費手當支給規則

百十一

同 第四十一年九月  
同 第三七〇號 領收證票用紙取扱方ノ件

百十二

同 第三十九年四月  
同 第三二六號 無効領收證票報告ノ件

百十二

同 第一一五三號  
同 證票受拂簿記入方ノ件

百十三

同 第三十八年二月  
内米檢發第八五號 共用物品受付簿調製記載方ノ件

百十五

同 第三年 八八號  
三米檢發第五八六號 共用物品使用簿記載方ノ件

百十五

同 第一八九號  
内米檢發第一八九號 郵便切手受拂簿調製ノ件

百十七

同 第七二號  
三米檢發第五六二號 郵便切手使用證明書式ノ件

百十八

同 第八五號  
同 備品消耗品受拂整理簿調製ノ件

百二十一

同 第十〇八號  
同 不用ニ屬スル物品賣却ノ件

百二十二

同 第三十九年十二月  
三米檢收第五二二號ノ二 検査員等就職報告ノ件

百二十二

檢

査



特15  
811

### 米穀検査規則

(明治三十七年二月  
縣令第六號)

- 第一條 縣内ニ於テ米穀ヲ讓渡シ又ハ縣外ニ輸出スルモノハ本則ニ依リ検査ヲ受クヘシ  
但シ他府縣産米ニシテ検査ノ證アルモノ及外國米ハ此限ニアラス
- 第二條 検査ハ産米検査輸出米検査ノ二種トス
- 第三條 産米検査ハ縣内ニ於テ讓渡スルモノニ就キ之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定メ合格米ハ上、中、ノ二等ニ區別ス
- 第四條 輸出米検査ハ縣外ニ輸出スルモノニ就キ之ヲ行ヒ合格不合格ヲ定メ合格米中支米ハ三等ニ精米ハ四等ニ區別ス  
但シ産米検査ニ於テ合格シタルモノニアラサレハ輸出米検査ニ提供スルヲ得ス
- 第五條 輸出米検査ニ合格シタルモノニ非レハ輸出スルコトヲ得ス
- 第六條 検査ハ左ノ事項ニ就キ之ヲ行フ  
品質、乾燥、色澤、形状、調製、俵裝

米穀検査規則

### 第七條

- 検査ヲ受クヘキ米穀ハ左ノ各號ニ據ルヘシ
  - 一 糲摺シタル上ハ唐箕、千石篩等ニ掛ケ青米、糲、稗、粃、碎米及土砂等ヲ除クコト
  - 二 異種米ハ勿論同種米ト雖モ品位ノ差異甚シキモノハ混交セサルコト
  - 三 精米ハ純良ヲ主トシ糠ノ附着又ハ土砂等ノ混入ナキコト
  - 四 一俵ノ容量ハ四斗トスルコト
  - 五 産米ノ俵裝ハ左ノ方法ニ依ルヘシ  
俵ハ乾燥セシ藁ニテ製シ四ヶ所編トシ重量四百五十匁乃至五百匁トス  
機俵ハ乾燥セシ藁ニテ製シ徑九寸重量ハ五十匁乃至七十匁トス  
繩ハ能ク打チ柔ケタル藁ヲ以テ製シ周リ八分以上トス  
横繩ハ四ヶ所各二廻リ結トシ緊縮ス  
縦繩ハ二筋ヲ以テ二方掛トシ悉ク横繩ニ引掛ケ四ツ目結トス
  - 六 輸出来ノ俵裝ハ左ノ方法ニ依ルヘシ  
俵造ハ二重トシ内俵ハ産米ノ俵裝ニ依ル外包ハ乾燥セ

米穀検査規則

シ獲蓮チ用ヒ重量ハ三百匁乃至三百五十匁トス  
 繩ハ能ク打子柔ケタル蠟ヲ以テ製シ摺掛ケトナス  
 横繩ハ周リ一寸以上トシ五ヶ所各二廻リ結トス縦繩ハ  
 周リ一寸二分以上トシ二筋ヲ以テ四方掛ケトシ悉ク横  
 繩ニ引掛ケ四ツ目結トシ充分ニ緊縮ス

七 本則ニ定ムル容量儀裝ニ據ラズシテ産米若ハ輸出米  
 ノ検査ヲ受ケントスル特種ノ事情アル場合ニハ其容量  
 儀裝及事由ヲ詳記シ豫メ當廳ノ認可ヲ受ケタルモノニ  
 アラサレハ検査ヲ受クルコトヲ得ス

第八條 検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ様式ニ依リ票箋ヲ俵  
 口ノ縦繩ニ結込ミ米穀検査員ノ検査ヲ受クヘシ  
 但輸出米票箋ハ米穀検査所、産米ノ票箋ハ同所轄出張  
 所ノ承認ヲ經タルモノニ非ラサレハ使用スルヲ得ス

紙製荷札  
 (紙質堅牢ニシテ防水ヲ施シ且離脱ノ憂ナキモノ)

明治何年産  
 重量皆掛何十何貫何百目  
 生産(輸出人)  
 明治何年何月何日何市町村  
 氏名

長約三寸  
 五分  
 巾約一寸  
 五分

第九條 検査ノ證印アル筈及ヒ俵ハ再ヒ俵裝ニ使用スルコ  
 トヲ得ス

第十條 産米検査ニ合格ノモノニハ一定ノ用紙ヲ以テ縦繩  
 結目ニ卷封チナシ其俵面ニ各等級ノ證印ヲ押捺シ不合格  
 米ニ對シテハ其證印ノミヲ押捺ス

第十一條 輸出米検査合格ノモノハ其等級ニ應シ各一定ノ  
 證票ヲ外包ノ縦繩結目ニ卷封シ尙赤肉ヲ以テ包面ニ各等  
 級ノ證印ヲ押捺シ不合格米ニハ黒肉ヲ以テ單ニ不合格ノ  
 證印ノミヲ包面ニ押捺ス

第十二條 検査上使用する證票及證印ノ雛形左ノ如シ



一寸一分



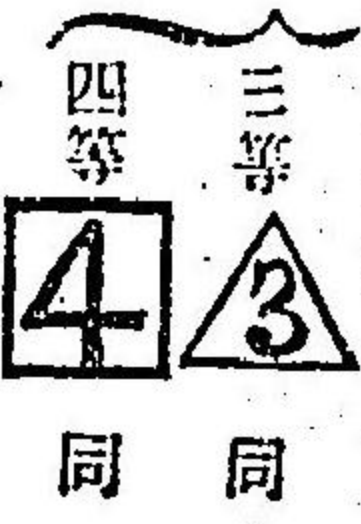
二等票以下一等ニ準ス

産米検査合格印  
 徑三寸赤色

産米検査不合格印  
 徑三寸黑色  
 一等 徑三寸赤色  
 二等 同

米穀検査規則

輸出米検査合格印



徑三寸黑色

第十三條 検査済ノ米穀ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモ  
 ノハ像メ其事實ヲ検査出張所若ハ駐在所ニ申出テ更ニ檢  
 査ヲ受クヘシ

一 容量ヲ改ムルトキ

二 俵裝ノ毀損又ハ汚染シタル爲メ改裝セントスルトキ

三 證印磨滅シ又ハ證票票箋ノ亡失若ハ毀損シタルトキ

産米検査未済ノ米穀ハ検査出張所若ハ駐在所ノ承認ヲ  
 得ルニアラサレハ生産地以外ノ市町村ニ搬出スルコト  
 ヲ得ス

第十四條 産米検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ書式ニ依リタ  
 ル願書ヲ所屬検査員駐在所ニ差出スヘシ  
 (願書式)

産米検査願  
 何年産

米穀検査規則

一 粳(糯)玄(精)米 何 俵  
一 所 在 地 何郡市町村大字町村番地  
右産米御検査相成度此段相願候也

年月日

住所

何 某 ㊦

富山縣米穀検査員

何市町村駐在所御中

第十五條 輸出米検査ヲ受ケントスル者ハ左ノ書式ニ依リ  
タル願書ヲ其ノ検査ヲ受クヘキ日ノ五日前ニ最寄米穀檢  
査出張所ニ差出スヘシ  
但シ至急ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

(願書式)

輸出米検査願

何年産

一 粳(糯)玄(精)米

何 俵

此検査料金何程

一 所 在 地

何郡市町村大字番地

一 仕 向 地

何府縣又ハ港灣名

右輸出米御検査相成度料金領收證書貼付此段奉願候也

四

年月日 住所 何 某 ㊦  
富山縣米穀検査所何出張所 御 中

年月日

住所

何 某 ㊦

富山縣米穀検査員

何市町村駐在所御中

第十六條 輸出米検査ニ限リ左ノ手数料ヲ納付スヘシ  
一 壹俵ニ付金貳錢  
第十七條 第七條第七號輸出米検査手数料モ亦前項ニ同シ  
第十三條ノ再検査ニハ手数料ヲ徴收セス  
第十七條 検査ハ検査員之ヲ行フ但シ検査監督員ニ於テ檢  
査ヲ行フコトアルヘシ

(願書式)

輸出米検査願

何年産

一 粳(糯)玄(精)米

何 俵

此検査料金何程

一 所 在 地

何郡市町村大字番地

一 仕 向 地

何府縣又ハ港灣名

右輸出米御検査相成度料金領收證書貼付此段奉願候也

表	第 二 號
米穀検査員之證	氏 名
富 山 縣 印	

裏	富 山 縣 印
---	---------

第十九條 検査済ノ米穀ト雖トモ検査監督員又ハ特ニ命令  
アル検査員ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ何時ニテモ  
解俵又ハ再密スルコトアルヘシ

第二十條 検査監督員及検査員ハ自己ノ利害ニ關係アル米  
穀ヲ検査スルコトヲ得ス

第二十一條 検査ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ施行ス

第二十二條 検査ニハ出願者若シクハ其ノ代理人必ス立會  
スヘシ

第二十三條 米穀ノ賣買等ニ從事スルモノ、使用スル米刺  
ハ長サ一尺周圍二尺以上ヲ超エルコトヲ得ス

米穀検査規則

第二十四條 第四條但書第五條第七條第九條第十條第十  
三條

五

條第十九條第二項第二十二條ノ規定ニ違背シタルモノハ  
拘留又ハ科料ニ處ス

左ノ各號ノ一ニ該當シタルモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

一 未検査ノ米穀ヲ讓渡シ又ハ縣外ニ輸出シタルモノ若  
ハ輸出ニ着手シタルモノ

二 未検査ノ米穀タルコトヲ知リテ讓受ケタルモノ

三 検査ヲ免カセテ目的ヲ以テ不正ノ手段ヲ行ヒタルモノ

四 検査済ノ米穀ニ異形、異質、粗悪ノ米ヲ混合シ若ハ  
他物ヲ混入シ又ハ濕氣ヲ含マシメタルモノ

五 検査後減量ノ目的ヲ以テ俵中ノ米ヲ抽出シタルモノ

六 検査證票ト類似ノ證票ヲ用井又ハ外面ニ押捺シタル  
證印ト類似ノ證號ヲ押捺シタルモノ

附 則

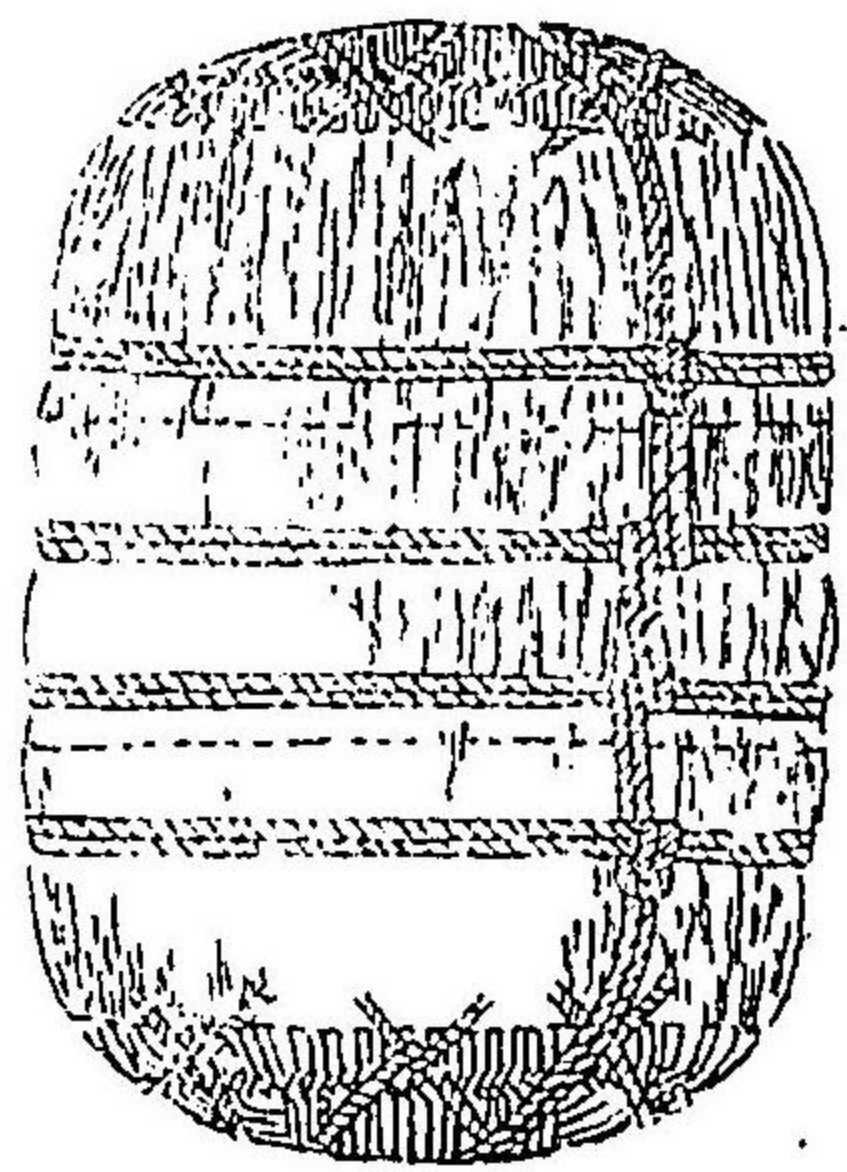
第二十五條 産米ニ關スル規程ハ第七條及第二十四條ヲ除  
クノ外明治三十八年生産米ヨリ施行ス

第二十六條 第七條ノ五項六項及第十一條ノ證印ニ關スル  
改正ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ證印中  
精米ノ四等ニ限リ本令發布ノ日ヨリ之ヲ實施ス

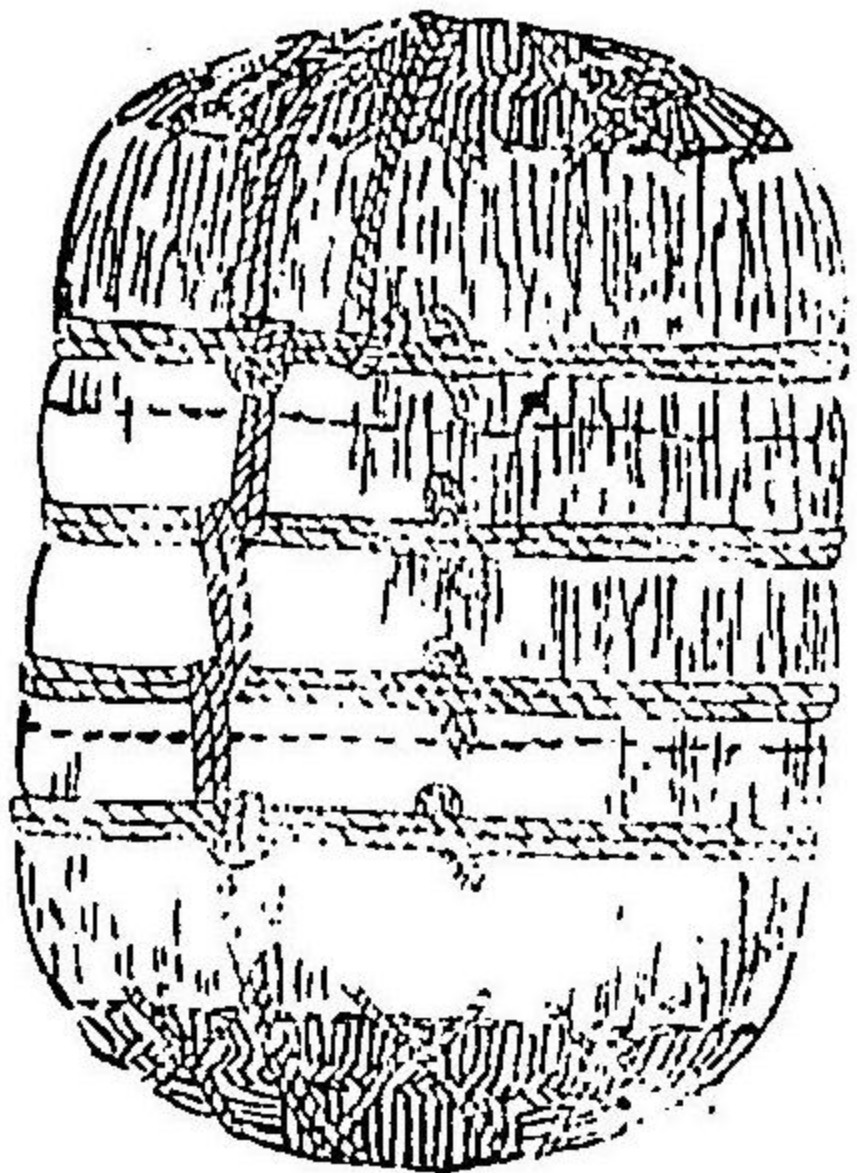
第二十七條 米穀検査所及其出張所ノ位置ハ別ニ之ヲ告示ス

産米俵装

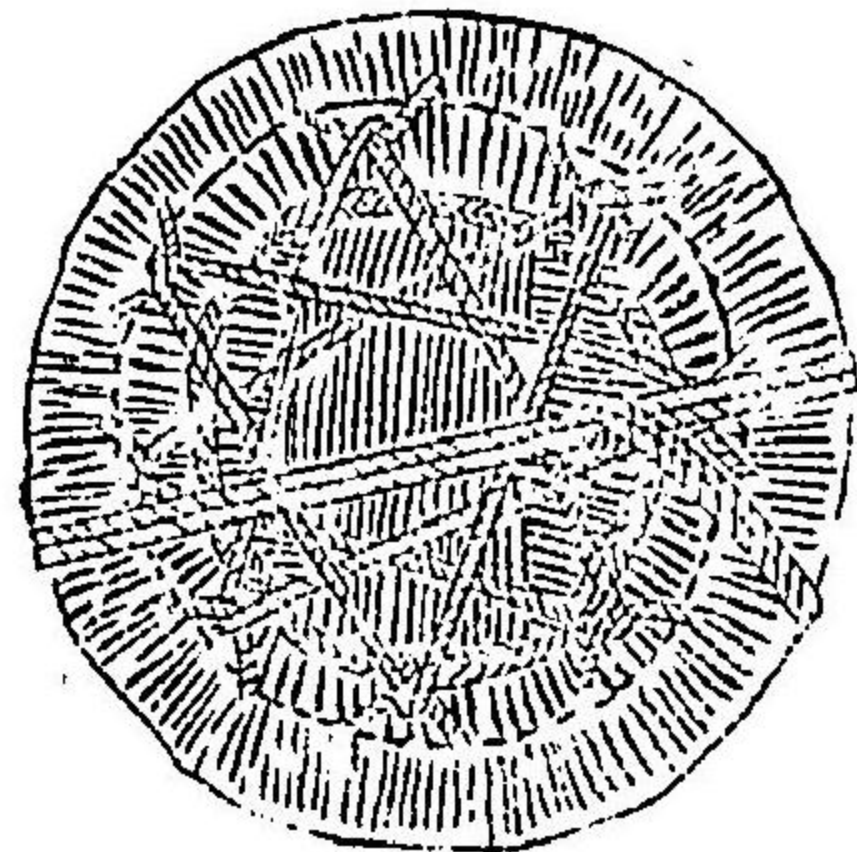
前面



後面

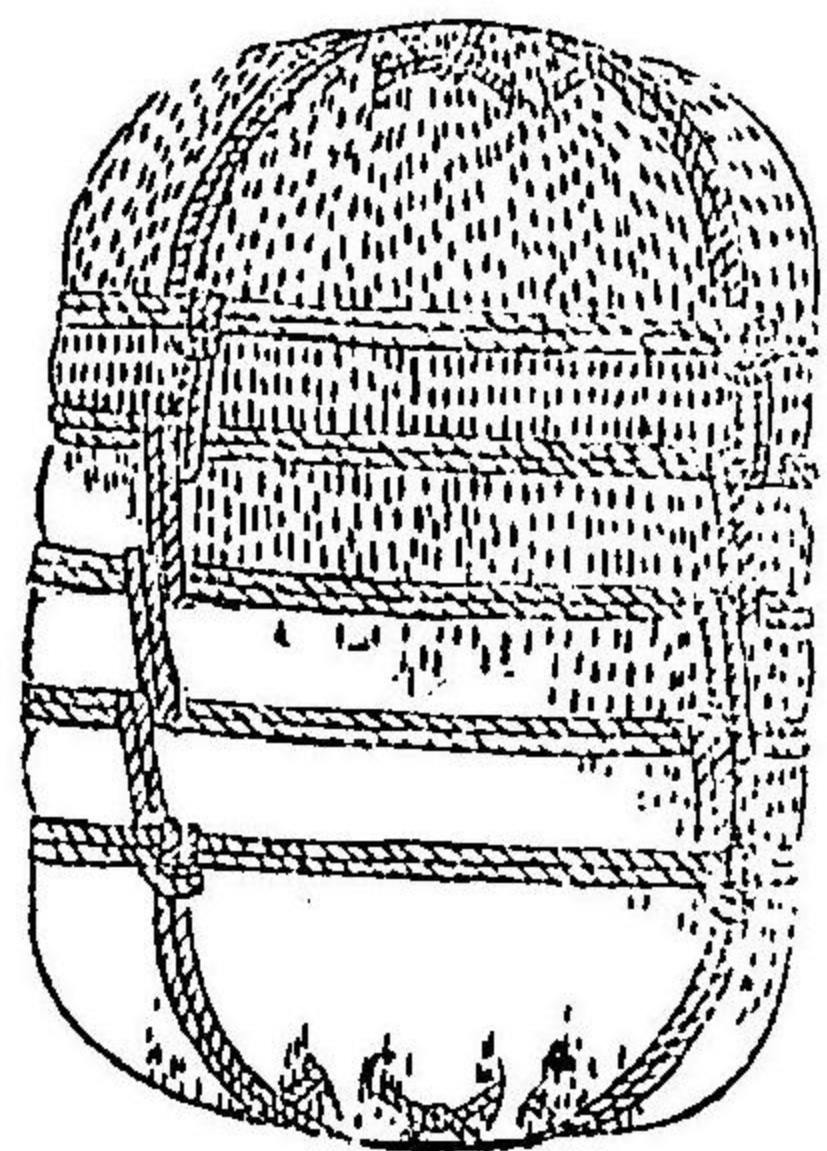


側面

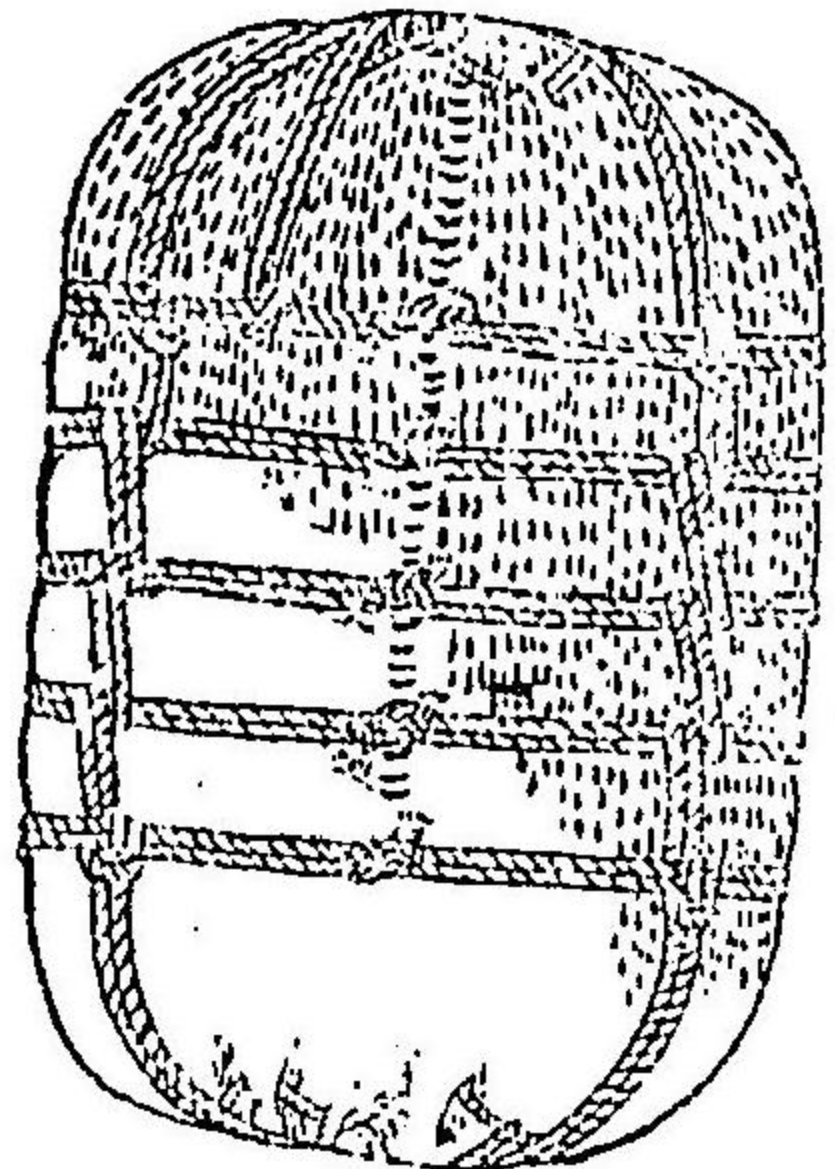


輸米俵装

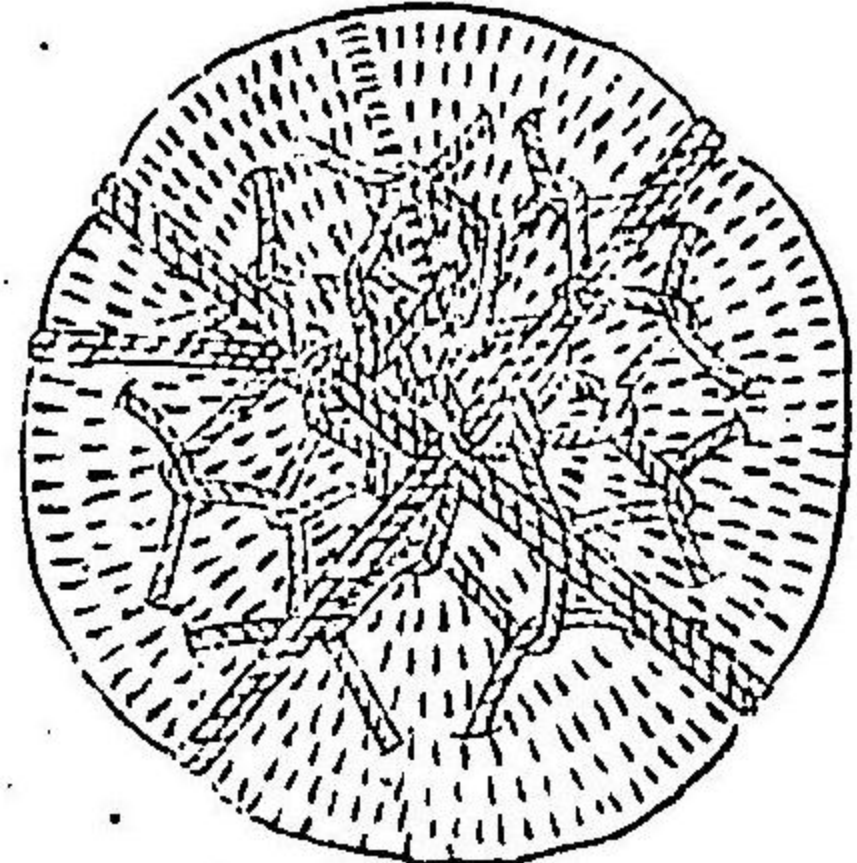
前面



後面



側面



備考 横繩ハ捻込ミトナサス「カラ」結トスヘシ

備考 カガリ繩ハ葎ノ織繩六筋目ヨリ引掛ケルモノトス

### 米穀検査施行手續

(明治三十七年六月 廳達第二十九號)

内務部 米穀検査所

第一條 米穀検査規則ニ定ムル検査ハ本手續ニ依リ施行ス

第二條 検査ヲ爲ストキハ先ツ現品ト出願ノ俵數トヲ照合シ次ニ米製俵裝ヲ検査スヘシ

但シ出願俵數ト現品ト照合シ現品出願俵數ヲ超過スルトキハ其超過俵ヲ除去スルモノトス

第三條 産米検査ハ左ノ標準ニ依リ合格米ノ等級ヲ區別シ其他ノモノヲ不合格トス

玄米

上等米 輸出米検査一等ニ該當スルモノ

中等米 輸出米検査三等ニ該當スルモノ

精米

上等米 輸出米検査一等ニ該當スルモノ

中等米 輸出米検査三等ニ該當スルモノ

第四條 輸米ノ検査ハ左ノ標準ニ依リ合格米ノ等級ヲ區別シ

米穀検査施行手續

別シ其他ノモノヲ不合格トス

玄米

一等米 品質、乾燥、色澤、調整、形状、俵裝ノ最モ善良ナルモノ

二等米 品質、乾燥、色澤、調整、形状、俵裝ノ善良ナルモノ

三等米 品質、乾燥、色澤、調整、形状、俵裝ノ普通ナルモノ

精米

一等米 色澤純良、粒形、整一ニシテ糠、枇、碎米等ヲ混入セス糠ノ附着セサルモノ

二等米 色澤、粒形、一等ニ亞キ糠、枇、碎米等ノ混入稀少ニシテ糠ノ附着セサルモノ

三等米 色澤、粒形、普通ニシテ糠ノ附着糠、枇、碎米等ノ混入少キモノ

四等米 色澤、粒形、三等ニ亞キ糠ノ附着糠、枇、碎米等ノ混入少キモノ

第五條 容量ヲ調査セントスルトキハ左ノ標準ニ依ルヘシ

一 五十俵未満ハ五俵以内トシ以上五十俵ヲ増ス毎ニ貳

米穀検査規則發布ニ關スル件

俵ヲ加ヘ枳量又ハ秤量スルモノトス

第六條 検査監督員又ハ検査員ニ於テ 米穀検査規則第十條 及第十一條ノ証票ヲ卷封シタル時ハ 其封目ニ自己ノ檢印ヲ捺捺スヘシ

但シ證票用紙ハ左ノ區別ニ依ル

粳 玄 米 白 色  
同 精 米 青 色  
糯 玄 精 米 赤 色

第七條 米穀検査規則第十條又ハ第十一條ノ證印ハ俵ノ兩端ニ貳個以上ヲ捺捺スヘシ

第八條 米穀検査規則第十九條ニヨリ 検査監督員又ハ特ニ命令アル検査員ハ 俵又ハ再審ノ結果 前検査ノ不當ヲ發見シタルトキハ 前ノ證印ヲ取消シ更ニ適當ノ證印ヲ捺捺シ 尙其證票ヲ改ムヘシ

解俵又ハ再審ノ結果不都合ナキ場合ニ於テハ 更ニ證票ヲ卷封シ成規ノ手續ヲ行フヘシ

但シ證票ヲ破棄スルニ至ラスシテ 再審ヲ了シタルトキハ 其封目ニ自己ノ檢印ヲ捺捺スヘシ

第九條 検査監督員又ハ特ニ命令ヲ受ケタル検査員ニ於テ

解俵又ハ再審ヲナシタルトキハ 其頭末ヲ 米穀検査所長ニ報告スヘシ

第十條 證印ノ取消ハ別ニ定ムル印影ニ依リ 合格米ノ證印ハ 黑色 不合格米ノ證印ハ 赤色ニテ捺捺スヘシ

第十一條 検査監督員又ハ検査員ニ於テ 米穀検査規則ニ照ラシ 違犯者ヲ告發セントスルトキハ 充分ニ證憑ヲ蒐集シ 直チニ米穀検査所長ヲ經由シ 手續ヲ爲スヘシ

但シ違犯罪即決ヲ求ムル場合ハ 直チニ最寄警察官署ニ通報シ 同時ニ米穀検査所長ニ報告スヘシ

米穀検査規則發布ニ關スル件

(明治三十七年二月 告諭第一號)

本縣ノ重要物産タル米穀改良ノ一方策トシテ 本年産出ノ米穀ヨリ之方検査ヲ施行スルコト并ニ 俵裝乾燥等實行上ノ準備ニ關シ豫テ告諭セル所アリシカ今即チ 米穀検査規則ヲ發布スルニ至レリ想フニ 検査法ニ依リ 米穀改良ノ目的ヲ達センニハ 産米検査及輸出来検査ヲ併セテ 施行スルニ非サルハ 充分ノ成績ヲ擧グルコト能ハサルハ 一般ニ認ムル所ナリト雖モ 先ツ當分輸出来検査ニ止メ 其成績ニ鑑ミ 然ル後徐口

ニ産米検査ヲ施行セントス 抑モ産米ノ 改善發達ハ 當業者自ラ利害ヲ覺知シ進シテ之レカ實行ノ任ニ當ルヘキモノニシテ 法令ヲ以テ強制スルカ如キハ 固ヨリ望ム處ニ非ラスト雖モ 奈何セシ本縣産米ハ 多年聲價ヲ失墜シ 其損失極メテ多大ナルヲ以テ 當業者ノ自覺改善ヲナスノ 時期ヲ待ツコト能ハス 茲ニ 検査規則ヲ發布シタリ 當業者須ク 此主旨ヲ体シ 永ク法令ノ力ヲ藉ラス 各自當テ 根本的米作ノ 改良ヲ計リ 以テ我越中米ノ 品位ヲ高メ 其聲價ヲ永遠ニ保持センコトヲ努ムヘシ

米穀俵裝ノ標準ニ關スル件

(明治三十八年二月 告諭第二號)

米穀ノ改善ニ伴ヒ之レカ 俵裝ノ改良モ 亦必要ニ屬セリ故ニ 明治三十六年十二月 告諭第十四號ヲ以テ 豫メ 俵裝ノ方法ヲ發表シタリ 亞テ 米穀検査規則ヲ發布シ之レカ 俵裝ノ規定ヲ明記シタルニ 毛拘ハラス 輸出検査實施後ノ 今日ニ於ケル狀況ニ 徴スルニ 稍ヤ改良ノ 實蹟見ルヘキモノアリト雖モ 尙ホ内

米穀俵裝ノ標準ニ關スル件

俵ニ在ツテハ 規定ニ背反シ 製造俵裝ニ定セサルモノアルヲ認ム 又外包莖ニ於ケルモ 粗製濫造ノモノ頗ル多シ 又縱横繩ノ如キハ 細小ニシテ 堅牢ナル 緊約ニ耐ヘサルモノアルハ 甚々遺憾トスル所ナリ 抑モ米穀ノ 俵裝改良ハ 倉庫貯藏及運搬上何レモ 堅牢ヲ要スルハ 言ヲ俵タサルヘシ 苟モ 俵裝ノ粗製ナルモノヲ用ウルトキハ 貯藏取扱上ハ 勿論 運搬ニ際シ 自然縱横緊約繩切斷解俵セラル、ノ虞アリ 且ツ 俵裝及莖等ニ損傷ヲ及ボスニ至ルハ 穀ノ免レサル所ナリ 然ルトキハ 之レカ爲メ 脫米ヲ生シ 容量ニ不足ヲ告グルト 改造等ノ 勞力費用ヲ用スル爲メ 自他ノ 損害學ヲ鮮少ナラサルヘシ

俵裝ノ標準

一 産米ノ 俵裝方法左ノ如シ

米穀俵裝ノ標準ニ關スル件 俵米容量正確ニ關スル件

俵 長四尺二寸 幅二尺五寸五分  
重量四百五十匁以上

封ハ四ヶ所編トシ各五寸五分編繩ハ「ニコ」繩ヲ  
用非糞ハ乾燥セルモノヲ能ク「スグリ」テ用ツヘシ

機俵 直徑九寸  
重量五十匁以上乾燥セル糞ヲ能ク「スグリ」テ用  
ツヘシ

繩 能ク打柔ケタル糞ニテ製シ周リ八分以上トシ横  
繩ハ四ヶ所ニ廻リ縱繩ハ二筋ヲ以テ二方掛トス

一輸出米俵裝方法左ノ如シ

内俵 内俵ハ産米ノ俵裝ニ依ル

外俵 長四尺九寸 幅十七目(二尺三寸)トス  
重量三百匁以上

籾 總方ハ乾燥セル糞ヲ能ク「スグリ」テ一筋乃至二  
筋トス

横繩 能ク打柔ケタル糞ヲ以テ編ヒ摺掛トシ周リ八分  
以上ニ製シタルモノヲ用非五ヶ所各二廻リトス

縱繩 打柔ケタル糞ヲ編ヒ摺掛トシ周リ一寸以上ニ  
製シタルモノヲ用非二筋ヲ以テ四方掛トス

カ 繩ハ横繩ト同一モノヲ用非八ヶ所以上編ヒテ  
リ方 目皿掛トス

### ●俵米容量正確ニ關

本縣産米ハ米穀検査施行以來米質及俵裝ノ改良并容量ノ正  
確ニ於テ大ニ各地ノ信用ヲ得聲價益々揚ラントスルニ方リ  
近來乾燥不長ノモノ又ハ容量不足ノモノ往々發見スルニ至  
リ爲メニ需用者ノ不信用ヲ招キ一旦獲得シタル聲價ナモ失  
墜セントスルノ傾向ヲ現出シタルハ當業者及本縣ノ爲メ頗  
ル悲ムヘキコトトス惟フニ如上ノ欠点ハ當業者熱誠ノ足ラ  
サルニ職由スルハ勿論ナリト雖モ容量ノ不足ニツキテハ未  
タ舊式不正ノ樽ヲ用フル等量器ノ齊一ヲ欠キ又米穀賣買ノ  
際其検査證印アルニモ拘ラス濫リニ俵中ノ米穀ヲ抽出スル  
カ如キモ蓋シ其一因タラント認メラル斯ク些々タル事情ノ  
爲メニ本縣主産物ノ聲價ヲ失墜シ信用ヲ失フカ如キハ誠ニ  
慨歎ニ堪ヘサル次第ナリ今ニシテ之ヲ俊メスンハ彌々不信  
用ヲ招キ當業者及本縣ノ經濟上ニ至大ノ影響ヲ及ボスニ至  
ルヘケレハ自今右検査方ニ付キテハ一層 嚴行スヘキヲ以テ  
當業者ハ能ク此意ヲ体シ特ニ容量ノ正確ヲ期センカ爲メニ  
農業者ハ規定ノ量器ヲ用ヘ商人ハ検査ノ證票ニ信ヲ置キテ

### スル件

(明治三十九年十二月)  
告諭 第五號

十

濫リニ俵中ノ米穀ヲ抽出スルカ如キコトナク益々本縣米穀  
ノ聲價ヲ博シ信用ヲ永遠ニ保持センコトヲ努ムヘシ

### ●米穀検査ニ關スル件

(明治三十六年十二月)  
告諭 第十二號

米穀ハ本縣重要物産ニシテ其品質ノ善惡價格ノ高低ハ皆ニ  
當業者ノ利害ニ關スルノミナラス一縣經濟ノ消長ニ影響ヲ  
及ボスコト頗ル大ナリ然ルニ維新后買米制度ノ廢止ニ伴ヒ  
乾燥調整漸次粗惡ニ流レ益其聲價ヲ失墜シ年々巨額ノ損失  
ヲ招キツアルハ掩フヘカラサル事實ナリトス而シテ之レ  
カ改良ニ就テハ多年勸誘獎勵ヲ加ヘタリシト雖モ其實効ヲ  
収ムルコト能ハス途ニ我カ越中米ノ聲價ヲシテ大ニ失墜セ  
シムルニ至レリ今ニシテ之レカ改良ノ方策ヲ立ツルニアラ  
サレハ其損失計ルヘカラサルヲ以テ本署來適切ノ方法ヲ需  
メント欲シ縣農會其他當業者等ニ諮リ百方講究ノ結果縣事  
業トシテ米穀検査ヲ施行スルコトノシ之カ費用ヲ本期縣會  
ニ要求シタルニ幸ニ賛同ヲ得タルヲ以テ不日米穀検査規則  
ヲ發布シ明治三十七年産出ノ米穀ヨリ之カ施行ヲ期セント

米穀検査ニ關スル件 米穀集合検査ニ關スル件

### ●米穀集合検査ニ關 スル件

(明治三十八年十一月)  
訓令甲第六十八號

米穀検査實施ニ付テハ豫メ各町村米穀ノ收穫高石數ヲ查  
照シ尙地利ノ便否集散ノ狀況ヲ斟酌シ本年六月告示第百  
十八號ヲ以テ米穀検査出張所及駐在所ノ名稱位置ヲ定メ一  
町村若ハ二三町村ヲ一區域トシ以テ検査員ヲ駐在セシメ可  
成生産者ノ便利ヲ計ラシカ爲メ各自ノ居宅ニ就キ検査セシ  
ムル方針ヲ取レリ然ルニ實施后ノ狀況ヲ觀察スルニ時々繁

郡市役所 町村役場

十一

産米改良及集合検査ニ關スル件 容量秤量調査ノ件

開アルモ今ヤ逐日米穀搬出ノ最盛期ニ赴キ各町村検査ノ出願數日々數百俵ノ多キニ達スルコトアリ此ノ場合ハ検査員ヲシテ交互應援ヲ爲サシムル等臨機ノ措置ヲ怠ラズ努メテ検査ノ敏捷ヲ計ルハ勿論ナリト雖モ限リアル検査員ヲ以テ到底一般受檢者ノ希望ヲ滿タシ難キ虞ナキヲ保セス若シ之カ爲メ検査ニ遲延ヲ來シ時機ヲ失シ損失ヲ招クカ如キコトアリテハ甚ダ遺憾トスル所ナリ故ニ此際各町村ニ在テハ大字町村毎ニ一ヶ所若ハ二三ヶ所ノ検査場ヲ設ケ二十俵以下ノ俵米ハ可成集合検査ヲ受ケシムル等便宜ノ方法ヲ講シ以テ検査ノ進捗ヲ計ラシムヘシ

産米改良及集合検査ニ關スル件

(明治三十九年八月 訓令甲第三十號)

昨午産米検査實施后ノ成績ニ鑑ミ尙一層米穀ノ改善ヲ促スト同時ニ生産者ノ利益ヲ謀ランカ爲メ今回米穀検査規則中ノ幾分ヲ改正シ産米検査ニ等級ヲ附スルコトトセリ今ヤ新

穀秋收ノ期漸ク迫レルヲ以テ此際克ク其趣旨ヲ普及シ當業者ヲシテ奮テ之カ改良ニ努メシムヘキハ勿論農會、農事試驗場、巡回教師、勸業委員等ナシテ大ニ助力勢援以テ其效果ヲ擧グルニ努メシムル機轉ニ注意スヘク尙今回検査員駐在所ヲ増設シ隨テ若干ノ検査員ヲ増加スル等努メテ検査ノ敏捷ヲ計リツ、アリト雖モ豫算ニ限リアルヲ以テ検査最盛期ニ際シテハ動モスレハ一般受檢者ニ満足ヲ與ヘ難キ虞ナキヲ保セス若シ検査停滯ノ爲メ商機ヲ失シ損失ヲ招クカ如キコトアリテハ實ニ遺憾トスル處ナリ故ニ此際客年十一月訓令甲第六十八號ノ主旨ニ依リ生産者ヲシテ集合検査ヲ受ケシムル機轉宜ノ方法ヲ設ケ一致協力以テ相互ノ便利ヲ計リ検査上遺憾ナキヲ期スヘシ

容量秤量調査之件

(明治四十年三月 三米檢發第九九號)

本年三月總達第四號ヲ以テ米穀検査施行手續第五條追加相成候就テハ容量ハ氣候ノ變動ニ依リ増減有之收穫期日ヨリ

翌年三月迄ハ差異無之モ四月ヨリ夏期九月マテハ増減ヲ生スヘク尤モ米質ノ硬軟ニ依リ遲速アリト雖モ凡ソ該標準ヲ査定シ置クハ裨廻ニ際シ參考上必要ニ有之尙又米ノ秤量ハ種類及大小粒又ハ地質氣候乾燥施肥等ノ如何ニ由リ從テ多

樹量増減標準

月	日	増	減
何月何日	何日	何合何勺	何合何勺
何月何日	何日	ク	ク

俵米秤量標準

町村名	種類	正味量目	昔掛量目
	大粒	何々	同
	中粒	何々	同
	小粒	何々	同
	何々	何十何百何目ヨリ	同
	何々	何十何百何目マテ	同
	何々	同	上
	何々	同	上
	何々	同	上

容量秤量調査之件

獎

勵



# 米穀検査員米作奨励

## 規程

(明治四十二年四月  
訓令甲第二十四號)

郡市役所 米穀検査所

- 第一條 本縣米穀検査員ハ検査事務ニ支障ナキ限ニ於テ此ノ規程ニ依リ米穀改良上直接關係アル左記事項ノ指導奨励並調査ニ從事スヘシ
- 一 稻種選水撰ニ關スル事項
  - 二 短冊形稻苗代及灌排水ニ關スル事項
  - 三 稻苗正條植ニ關スル事項
  - 四 稻ノ病虫鳥獸害驅除豫防ニ關スル事項
  - 五 田種(俗稱餓鬼種)拔取並種ノ混植廢止ニ關スル事項
  - 六 耕地ノ障害木伐採ニ關スル事項
  - 七 綠肥及堆肥ノ奨励、肥料ノ撰擇、施肥ノ方法並石灰使用量ノ注意ニ關スル事項
  - 八 米乾穀燥ニ關スル事項
  - 九 稻作ニ對スル主要肥料(人造、海産、粕類、灰、糠ノ各)

米穀検査員米作奨励規程

種別)ノ施用高及石灰ノ消費高並其被害ニ關スル調査

一〇 稻作狀況並米穀ノ生産消費高ニ關スル調査

第二條 前條ノ指導奨励及調査ハ米穀検査所長ノ指揮命令

ニ依リ之ヲ實行スヘシ

但シ前條ノ事項中必要ナル場合ハ郡市長ハ直接検査員

ニ指揮スルコトヲ得

第三條 指導奨励又ハ調査事項ニシテ特ニ報告ヲ要スルモ

ノハ米穀検査所長ノ示達ニ依リ一般検査員ハ各出張所主

任ニ出張所主任ハ検査所長ニ差出シ且必要アリト認ムル

モノハ同時ニ郡市長ニ通報スヘシ

但シ郡市長ヨリ指揮シタル場合ニ於テハ各出張所主任

ハ一般検査員ノ報告ヲ綜合シ郡市長及検査所長ニ報告

スヘシ

第四條 前條ノ報告ハ米穀検査所長ニ於テ直ニ知事ニ報告

シ又ハ閱覽ニ供スヘシ

## 米作奨励規程ニ關シ

### 注意方ノ件

(明治四十一年四月 內米發第一七七號)

各出張所主任

本月十七日訓令甲第二十四號ヲ以テ 米穀検査員米作獎勵規程ヲ定メラレ 検査員タルモノハ從來ヨリ更ニ一層責任ノ加重ナルヲ了得スヘキ儀ニ有之就中該事項ノ専ラ技術ニ屬スルモノノ鈔カラス若シ此際輕々ニ看過スルトキハ實地獎勵ニ臨ミ錯誤ヲ生シ當業者ヲシテ不測ノ苦境ニ沈淪セシムルノ失態ヲ演スルナキヲ保シ難シ故ニ検査員ハ常ニ其ノ學理技術ヲ研鑽シ其實地應用上機宜ニ適スル様熟得シ且執行上ニ對シテハ當該郡市町村吏員ト協商シ周到ニシテ遺算ナク善長ノ効果ヲ舉グルニ深ク留意スヘキ様懇篤 說示可有之此段及通達候也

### ● 稻種子澆水撰獎勵ノ件

(明治四十年 八月 訓令甲第四十二號)

郡市役所 町村役場

稻種子ノ澆水撰法タル各地農事試験場ノ成績ニ鑑ミ米穀ノ改良增收上ノ一手段トシテ到ル處歡迎セラレ著々普及ノ域

ニ進メルモノアルニ拘ラス本縣ノ如キ米穀主産地ニ在テ尙ホ之ヲ行フ者甚々寥寥タルハ斯業改良上ノ一大缺點タリ是ヲ以テ明治四十一年ヨリ別記規約ニ準據シ 市町村農會ヲシテ集合澆水撰種ノ實行ヲ期セシメントス 郡市町村ハ所屬農會ヲシテ其ノ設備ヲ全テセシムルニ務ムルト同時ニ一般當業者ニ對シテハ該趣旨ヲ知悉セシメ今秋ノ採種ヲ潤澤ニシ以テ明春播種ノ數量ニ缺乏ヲ告グルカ如キナカラシムル等之方實行上總テ遺算ナカラシムルコトヲ期スヘシ (別記)

何市町村農會何々區集合撰種施行規約

第一條 稻種子ハ總テ此規約ニ依リ澆水撰ヲ行フモノトス

第二條 澆水及苦澆汁ノ濃度ヲ定ムルコト左ノ如シ  
澆水 糯、有芒ノ梗並陸稻 比重一、一〇  
水一斗ニ付澆二升乃至三升ノ割合  
無芒ノ梗 比重一、一三  
水一斗ニ付澆三升乃至四升ノ割合

苦澆汁 糯、有芒ノ梗並陸稻 普通苦澆汁四分ニ水六分ヲ混シタルモノノ梗 普通苦澆汁ニ等分ノ水ヲ混シタルモノ

第三條 澆水撰種ハ一六字若クハ一部落ヲ區域トシ一ノ集

合撰種場ヲ設置シ其ノ區域內居住ノ農業者ハ總テ該撰種場ニ於テ撰種スルモノトス

第四條 集合撰種區域、撰種場、撰種擔當者及撰種施行期日ハ市町村農會之ヲ指定シ市町村長ニ報告スルモノトス但シ變更シタルトキ亦同シ

第五條 撰種用ノ澆、苦澆汁其ノ他ノ器具等ハ市町村農會ニ於テ共同購入ヲ爲スモノトス

第六條 撰種施行ニ要スル經費ハ各自ノ撰種量ニ應シ其ノ

帳簿様式

撰種成績簿

撰種ニ供シタル數量	撰種後種子ニ充ツヘキ數量	同上	層級	住所	氏名
-----------	--------------	----	----	----	----

何々撰種場

### ● 短冊形共同稻苗代設置規程

(明治三十八年四月 縣令第十八號)

短冊形共同稻苗代設置規程

第一條 稻苗代ハ短冊形トシ其ノ面積ハ一箇所五畝步ヲ下ルコトヲ得ス

一人一箇所ノ稻苗代面積五畝步ニ達セサルトキハ二人以上共同スヘシ

第二條 稻苗代ノ播床ハ幅四尺以内短冊形ト爲シ各播床ニ

實費ヲ撰種擔當者ニ納付スルモノトス

但シ市町村費同農會費又ハ補助金寄付金ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第七條 集合撰種場ニハ左記様式ノ帳簿ヲ備置キ撰種ノ成績ヲ明確ニスルモノトス

第八條 集合撰種施行ノ節ハ關係アル官公吏技術員并上級農會役員米穀検査員ノ指揮監督ヲ受クルモノトス

第九條 此ノ規約ハ明治四十一年ヨリ施行スルモノトス

(明治四十一年四月)  
内米收第一三四七號ノ二

各出張所主任

ハ八寸以上ノ間隔ヲ設ケヘシ

第三條 郡市長ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ據ラサル稲苗代ノ設置ヲ許可スルコトアルヘシ

第四條 第三條ノ稲苗代ヲ設置セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ郡市長ニ願出ヘシ

第五條 稲苗代ニハ其ノ播種年月日數量面積住所氏名ヲ表シタル木標ヲ建設スヘシ  
二人以上共同設置シタルトキハ其ノ代表者ノ住所氏名ヲ記スヘシ

第六條 第一條第二條第五條ニ違背シタルトキハ科料ニ處ス

附 則

第七條 本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 明治三十四年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

● 稻田正條植獎勵ニ關スル件

米穀検査員米作獎勵規程第一條第三號ノ 稻田正條植ノ獎勵ニハ各検査員其任ニ當ラサルヘカラス付テハ右獎勵スルト同時ニ今ヨリ當業者ニ對シ實行ニ要スル定木又ハ張繩ノ準備等ノ遺憾ナキ様注意セシメラレ度此段及通達候也

● 害虫驅除豫防施行法

規 則

(明治二十九年八月)  
縣令第六十七號

第一條 市町村ニ驅除委員ヲ置キ害虫發生季節中ハ常ニ田畑ヲ巡視シ害虫ノ發生經過ニ注意セシムヘシ  
但町村ノ便宜ニヨリ役場吏員ヲ以テ之ニ充ルモ妨ナシ

第二條 驅除委員ハ常ニ害虫發生ノ虞ナキヤ否ヤニ注意シ發生ノ虞アル乎若クハ發生ノ報告ヲ受ケタルトキハ關係田畑作人ニ驅除豫防ノ手續ヲ示シ之ト同時ニ市町村長ニ急報スヘシ

第三條 害虫田圃ニ發生シ又ハ發生ノ虞アリト認メタルトキハ該田畑作人ハ直ニ驅除豫防ニ着手シ之レト同時ニ口頭又ハ書面ヲ以テ驅除委員及市町村長ニ急報スヘシ

第四條 第二條第三條ノ報告ヲ受ケタルトキハ左ノ事項ヲ具シ町村長ハ郡市長ニ郡市長ハ之ヲ知事ニ急報スヘシ

- 一 害虫ノ種類
- 二 發生若クハ發生ノ虞アル地名
- 三 被害作物ノ種類

第五條 明治二十九年八月縣令第六十八號第一條ニ列記以外ノ虫類又ハ其他ノ動物ニシテ農作物ヲ害シ又ハ害スルノ虞アルトキハ町村長ハ郡市長ニ郡市長ハ知事ニ急報スヘシ

前項ノ報告ニハ其驅除豫防方法ノ意見ヲ附スヘシ

第六條 害虫驅除豫防法第三條ノ命令ヲ發シタルトキハ郡市長ハ市町村長ニ市町村長ハ驅除委員及田畑作人ニ之ヲ傳令シ指揮監督シテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ノ命令ヲ行ハサルトキ郡市長ハ直ニ市町村長ニ傳令シ市町村長ハ之ヲ行ハシメ市町村長ハ市費ヲ以テ之ヲ行ヒ其費用ハ害虫驅除豫防法第三條ニ

害虫驅除豫防施行法規則

依リ其作人ヨリ徴收スヘシ

第七條 害虫田畑ニ發生シ又ハ發生ノ虞アリテ急速驅除豫防ヲ要スル場合ニ於テハ郡市長ハ直ニ前條ノ手續ヲ爲シ之ト同時ニ左ノ事項ヲ知事ニ報告スヘシ

- 一 害虫ノ種類
- 二 發生シ又ハ發生ノ虞アル市町村地名並ニ驅除豫防ヲ施行スヘキ區域及其期限
- 三 被害作物ノ種類

第八條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ虞アルトキ若クハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ市町村長ハ市町村費ヲ以テ直ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テハ町村長ハ郡市長郡市長ハ知事ニ左ノ事項ヲ具シ報告スヘシ

- 一 害虫ノ種類
- 二 郡市町村名
- 三 被害農作物ノ種類及被害見積反別
- 四 被害ノ狀況

第九條 前條驅除豫防ノ爲メニ夫役ヲ賦課スルノ必要アルトキハ町村長ハ郡市長ニ郡市長ハ知事ニ賦課區域及ヒ課率

害虫驅除豫防法規則

サ定メ具申スヘシ

第十條 害虫驅除豫防ノ爲メ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物糞糞別  
扶雜草ヲ拔棄若クハ燒棄スルノ必要アリト認ムルトキハ  
町村長ハ郡長ニ郡市長ハ知事ニ具申スヘシ

第十一條 害虫一町村以上ニ蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アルトキ  
ハ郡長ハ該町村及隣接町村ヲシテ同時ニ驅除豫防ヲ行ハ  
シムヘシ

第十二條 害虫隣接都市ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ

害虫驅除豫防報告様式

害虫名

郡市名	被 害 町 村 數	同上農作 物ノ種類	同上見 積	此平 年 收 穫	被害ニ付 收見積高	驅除豫防ニ係 ル市町村費	同 上 夫 役 ノ 數	同 上 補 助 額
何郡								
何市								
計								

(各害虫ニ付區分スヘシ)

郡市長ヨリ隣接郡市長ニ急報スヘシ

第十三條 驅除豫防施行期間ノ景況ハ郡市長ニ於テ取纏メ  
其時々知事ニ報告スヘシ

第十四條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害虫驅  
除豫防ニ關スル事項ハ左ノ様式ニ依リ町村長ハ翌年四月  
十日限リ郡長ニ報告シ郡市長ハ同月十五日迄ニ知事ニ報  
告スヘシ

害虫ノ種類及驅除豫防方法

(明治三十三年三月  
縣令第十六號)

第一條 害虫驅除豫防法ニ依リ驅除豫防スヘキ害虫ハ左ノ  
種類トス

- 一 螟虫方言 サシムシ カラムシ 主ナル被害稻
- 二 浮塵子方言 ウンカ コマカムシ 同 上
- 三 螟蛉方言 アナムシ スケハク 同 上
- 四 葉卷虫方言 ツミムシ カラダ 同 上
- 五 泥虫方言 ドロムシ 同 上
- 六 蝗虫方言 コウロギイナコ 同 上
- 七 蝻方言 ケムシ 桑樹茶樹 主ナル被害

第二條 前條ノ害虫ハ左ノ方法ニ依リ驅除豫防スヘシ

- 一 採 卵
  - 苗代及ヒ本田ノ稻葉ニ産附シタル卵塊ヲ採取スルヲ最  
モ緊要トス
- 二 益虫保護
  - 前項採卵シタル卵塊中ニ小形ノ寄生蜂寄生シ居ルヲ以  
テ益虫保護器ヲ用ヒ之ヲ保護スヘシ
- 三 捕 蛾
  - 苗代ニ於テ他ノ害虫ト共ニ手網ヲ以テ捕獲シ夜中ハ誘  
蛾燈ヲ點シ誘殺スヘシ誘蛾燈ハ苗代ニアリテハ一反歩  
二個以上四個以内本田ニアリテハ二反歩以上四反歩以  
下ノ害虫ノ種類及驅除豫防方法

一 内ニ三個宛トシ薄暮ヨリ夜半迄點燈スヘシ

四 眞枯及白穢拔取

稻ノ眞枯又ハ白穢中ニハ幼虫蝕入シ居ルヲ以テ之ヲ拔  
取り燒却スヘシ

五 稻葉處分被害甚シキ葉ハ其儘肥料トシテ使用スルコ  
トナク翌年五月マテニ燃焼又ハ堆肥トシ腐熟セシメ之  
ヲ使用スヘシ

浮 塵 子

一 苗代ノ驅除

該虫ハ稻苗代ノ頃ヨリ發生スルヲ以テ 此際手網又ハ油  
類ヲ以テ驅除スヘシ

二 畦畔ノ驅除

本田整理ノ際浮塵子ハ畦畔ニ匂ヒ上ルヲ以テ手網ニテ  
捕殺シ又ハ燒却スヘシ

三 本田ノ驅除

本田ニ發生シタル時ハ一反歩ニ付石油一升乃至二升ヲ  
流シ善ク稻幹ヲ洗フカ如ク水ヲ掛ケ稻葉ヲ掃ヒ虫ヲ落  
スヘシ

螟 蛉

害虫ノ種類及驅除豫防方法

- 一 點火誘殺  
苗代ニ於テ誘蛾燈ヲ點シ蛾ヲ誘殺スヘシ
- 二 採 卵  
稻葉ニ産附セシ卵ヲ採收スヘシ
- 三 益虫保護  
該虫ニハ一種ノ寄生蜂アルナ以テ注意シ之ヲ保護スヘシ
- 四 幼虫捕獲  
苗代木田共ニ幼虫ヲ發見セハ手網ヲ以テ捕殺シ又苗代ニ於テハ細切シタル草又ハ藁ヲ撒布シ水吐口ヲ塞キ苗葉ノ没スル迄水ヲ灌キ虫ノ草又ハ藁ニ移リタルヲ度トシ水吐口ヲ開キ此ニ穴ノ類ヲ以テ掏取り驅殺スヘシ
- 五 蛹ノ捕獲  
幼虫老熟セハ稻葉ヲ卷キ其中ニ蟄シ後之ヲ嚙切り水面ニ墜落シ田ノ四隅ニ漂着シ其儼殼皮シテ蛹ニ化スルヲ以テ之ヲ掏取り埋却又ハ燒却スヘシ
- 葉 卷 虫
- 一 捕 蝶  
蝶(ハナセ、リ)ハ手網又ハ棒ノ先ニ板ヲ打着タルモノ

- ヲ以テ捕殺スヘシ
- 二 幼虫捕獲  
竹或ハ鐵ニテ櫛ノ如キモノヲ製シ之ヲ板又ハ板金ニ付シ其板又ハ板金ニ布袋ヲ垂レ捲束セル稻葉ヲ梳リ虫ヲ袋中ニ落シ害殺スヘシ
- 一 捕 蛹  
蛹ハ畦畔又ハ麥田等ノ土中ニアリテ越年スルヲ以テ耕耨又ハ畦塗ノ際注意シ之ヲ拾取り驅殺スヘシ
- 泥 虫
- 一 苗代ノ驅除  
煙草莖ノ煮汁又ハ白芥子油ヲ注キ棒ヲ以テ苗ヲ動搖シ虫ヲ落シ苗葉ノ没スルマテ灌水シ虫ノ溺死ヲ待チ水吐口ヲ開放シ斃虫ヲ流去スヘシ
- 二 本田ノ驅除  
晴天ノ日朝露ノ乾カサル時藁木灰ヲ稻葉ニ散布シ又ハ除草ノ際排水シ藁ノ類ヲ以テ虫ヲ掃ヒ落シ泥中ニ埋没セシムヘシ
- 三 益虫保護  
蛹虫ニ有益ナル一種ノ寄生蜂アルヲ以テ注意シ之ヲ保

護スヘシ

- 蝗 虫
- 一 採 卵  
春季田へ水ヲ灌キ土塊ヲ攪拌スル際其卵塊田ノ四隅ニ漂着スルヲ以テ之ヲ拾ヒ取り埋却又ハ燒却スヘシ
- 二 幼虫捕獲  
幼虫ハ手網ヲ以テ捕殺スヘシ
- 蛄 蚶
- 一 蛾誘殺  
黄昏ヨリ十時マテ誘蛾燈ヲ點シ誘殺スヘシ
- 二 幼 虫
- 幼虫ハ枝葉ニ群集スルヲ以テ之ヲ剪伐シ又ハ生石灰硫黄ヲ煎蒸シ之ヲ稀薄ニシ注クヘシ
- 三 被害樹處分  
被害甚シキ樹木ハ速ニ伐採シ燒却スヘシ
- 前記ノ外一般ニ施行ヲ要スル事項
- 一 雜草燒却  
秋季又ハ春季畦畔踏傍ノ雜草ヲ燒却フヘシ
- 苗代田害虫驅除豫防ノ件
- 田稗拔取ノ件
- 稗ノ混植ヲ廢止セシムル件

苗代田害虫驅除豫防ノ件

(明治三十四年五月 縣令第五十八號)

縣下苗代田螟蛉蟻虫發生ノ虞アルニ因リ該虫及ヒ其他ノ害虫ト共ニ本田ニ移植ノ期マテ驅除豫防ヲ行フヘシ  
本令ニ違反スル者ハ明治二十九年三月法律第十七號害虫驅除豫防法第三條ヲ適用シ實行セシム

田稗拔取ノ件

(明治四十年六月 縣令第三十六號)

稻田ニ發生シタル田稗(俗稱餓鬼稗)ハ所轄都市長ノ定ムル期間ニ依リ其ノ作人ニ於テ之ヲ拔取り燒却スヘシ違背シタル者ハ科料ニ處ス

稗ノ混植ヲ廢止セシムル件

耕地障害木取締規則 障害木伐採ニ關スル件

(明治四十一年四月) 内米收第一三二四號ノ二

各出張所主任

農家從來ノ慣習トシテ稻作ニ種ノ混植ヲ爲スモノ往々有之候處右ハ一見有利ノ如ク見受ケラレ候得共 其實稻ノ發育ヲ害シ米ノ收穫ヲ減少スルコト多大ニシテ畢竟得ル處少ク失フ處大ナル結果ヲ呈シ候ニ付今年ヨリ 斷シテ右混植ヲ爲サシメサル様取計方其筋ヨリ通牒ニ接シ候條御了知ノ上今回發令ノ米作獎勵規程ニ基キ 一般検査員ヲシテ之レカ獎勵ニ盡力セシメラレ度此段及通牒候也

耕地障害木取締規則

(明治四十年八月) 縣令第五十二號

第一條 耕地ノ畦畔並耕作道路溝渠畔ニ存在スル樹木ニシテ耕地ニ陰影ヲ與フルモノハ郡市長ノ定メタル期間ニ依リ其ノ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ掘取り若ハ根元ヨリ伐採スヘシ  
第二條 前條ニ該當スル樹木ト雖モ果實ノ採取米穀ノ乾燥等ノ目的ニ供スル爲之ヲ存置セントスルモノハ其場所種

類數量及存置ノ理由ヲ詳記シタル書面ニ見取圖ヲ添附シ所轄郡市長ニ出願許可ヲ受クヘシ

但シ管理者郡市長ナルトキハ知事ニ申請スヘシ

第三條 郡市長ハ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ其ノ適否ヲ調査シ許否スルト共ニ其ノ旨ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 米穀乾燥ノ必要上存置ヲ許可シタル樹木ト雖モ郡市長ノ定メタル期間ニ於テ潤葉樹ハ地上ヨリ高サ二間半以内ニ本幹ヲ伐採シ其枝條ハ長サ一間以内ニ伐除シ針葉樹ハ本幹ノ全長五分ノ四以上ノ處マテ其ノ枝條ヲ剪除スヘシ

第五條 郡市長ハ毎年適當ノ時季ニ於テ豫メ期限ヲ定メ第一條及第四條ヲ實施セシムヘシ

第六條 前條ノ時期ハ施行五日前ニ其ノ成績ハ施行後七日以内ニ知事ニ報告スヘシ

第七條 第一條及第四條ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

障害木伐採ニ關スル件

(明治三十六年十二月) 訓令甲第九十一號

郡役所 警察署  
耕地ノ畦畔ニ繁生スル樹木ノ伐採ニ付テハ數年來種々ナル方法ヲ設ケ獎勵ヲ加ヘタリシト雖モ 農家因襲ノ久シキ其利ヲ知ルモ容易ニ之カ伐採ヲ斷行セサルノ傾向アリ依テ今回縣令ヲ發布シ伐採ヲ施行セシムルコト、セリ就テハ其ノ趣旨ヲ普及シ當業者ヲシテ期限内ニ伐採ヲ爲サシムルコトニ精々勸誘ヲ努メ違背者ヲ出サ、ル様特ニ注意スヘシ  
右訓令ス

農事改良ニ關スル件

(明治三十六年十二月) 告諭 第十三號

耕地ノ畦畔ニ繁生スル樹木ノ稻作上ニ障害アルコトハ明白ノ事實ニシテ令復々之ヲ説クノ必要ナシ而シテ之カ伐採ニ就テハ縣ニ郡ニ町村ニ將又農會ニ於テ多年獎勵ヲ加ヘタリシト雖モ 農家因襲ノ久シキ其利ヲ知ルモ 之カ伐採ヲ斷行スルモノ少ク各村到ル處田間ニ樹木ヲ育成セシメ以テ稻禾ノ生育ニ最モ必要ナル日光ノ透射及空氣ノ流通ヲ阻碍シ收穫上年々多大ノ損失ヲ招キツ、アルハ寔ニ遺憾ニ堪ヘサルナリ

農事改良ニ關スル件 堆肥製造獎勵規程

堆肥製造獎勵規程

(明治四十年四月) 縣令第三十一號

第一條 完全ナル堆肥製造ヲ獎勵スル爲 本規程ノ標準ニ據リ新ニ肥舍ヲ建設シ堆肥ヲ製造シタル者ニ對シ獎勵金ヲ交付ス

第二條 前條獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ 肥舍建設堆肥製造ノ後肥舍ノ略圖並ニ製造シタル堆肥ノ重量概算ヲ記シタル書面ヲ添ヘ町村長及郡市長ヲ經由シテ知事ニ届出ツヘシ

但シ肥舍ノ略圖ニハ建設竣工ノ月日建坪及構造ノ概要ヲ記スヘシ

第三條 前條ノ届出アリタルトキハ知事ハ主務官吏ヲシテ

堆肥製造獎勵規程 米穀乾燥取締規則

實地検査ヲ行ハシメ適當ト認ムルモノニ限り交付金員ノ通告ヲ爲スモノトス

第四條 本規程ニ依リ獎勵金ヲ受ケタル者ハ毎年完全ナル堆肥ヲ製造シ且ツ其ノ普及ニ努ムルノ義務アルモノトス

堆肥倉建設並堆肥製造ノ標準

堆肥倉ノ位置構造

一 建設スヘキ位置ハ宅地内ニ於テ堆肥ノ搬出原料ノ運搬

ニ便利ナル處ヲ撰定スヘシ

但シ位置ハ豫メ警察官署ノ承認ヲ受クルヲ要ス

一 建設坪ハ六坪以上タルヘシ

一 高サ地盤ヨリ桁下マテ七尺以上タルヘシ

一 入口ハ幅六尺トシ可成一方ノ中央ニ設ケ其ノ他ノ方面

ハ柱及ヌキチ外面ニ表ハシ内面ハ厚サ五寸以上ノ壁ヲ

以テ圍フヘシ

一 床面ハ平地ヨリ一尺以上ノ地盛ヲナシ其ノ上チ粘土ニ

テ一方ニ傾斜シテ叩キ固メ其ノ傾斜シタル一方ニ溜桶

ヲ埋メ置キ堆肥ヨリ流泄スル肥水ヲ受容シ又ハ人尿汚

水ヲ貯溜シ置キテ堆肥ニ灌クノ便ニ供スヘシ

堆肥ノ原料及製造法

一 堆肥ノ原料ハ厩肥、糞肥、雜草、塵芥、落葉、厨房ノ殘滓、池堤等ノ底土其ノ他堆肥トナルヘキ種々ノ廢棄物ヲ集テ之ニ充ツヘシ

一 堆肥ニ供スル土ハ可成乾燥セシメテ用フヘシ

一 堆肥ノ腐熟ヲ善クスルニハ溫氣、濕氣並空氣ノ三ツヲ適度ニ保有セシムルヲ要ス

一 堆積ノ高サハ五尺位ニ止ムヘシ

米穀乾燥取締規則

(明治三十六年十二月 縣令第三百二號)

第一條 米穀ヲ生産スル者ハ稻ノ適度ニ成熟シタル後之ヲ刈取リ調製後變質腐敗ヲ來ササル様乾燥スヘシ

第二條 稻ノ乾燥ハ七日以上架干ト爲スヘシ

但シ土地ノ狀況ニ依リ架干ヲ爲シ難キトキハ郡市長ノ承認ヲ得テ地干ヲ爲スコトヲ得

第三條 前條ノ地干ハ晴天三日以上トシ向ホ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

一 稻ハ日出後ニ取擧ケ日没前ニ集積シテ覆蓋ヲ爲シ又

慮ラス以テ今秋收穫ノ豐饒ヲ期待スルト同時ニ之カ乾燥ノ十全ヲ期シ益々米穀改良ノ聲價ヲ舉グル様努ムヘシ

米穀乾燥ニ關スル件

(明治三十八年七月 訓令甲第三百九號)

郡市役所 町村役場

米穀ハ縣下ニ於ケル最モ重要ノ物産ナルヲ以テ之カ品質ヲ良好ニシ其ノ聲價ヲ發揚スルニ努ムルハ縣民ノ大ニ留意スヘキ所ナリトス而シテ米質ノ精粗ハ主下シテ乾燥ノ完全ナルト否トニ關係スルコト多大ナルカ故ニ去明治三十六年

十二月 縣令第三百二號米穀乾燥取締規則ヲ發布シ七日以上架干ニスルヲ本旨トシテ其乾燥方法ヲ規定セリ然レトモ土地ノ

狀況ニ依リ之ヲ行ヒ難キモノアルヘキヲ顧慮シ郡市長ノ承認ヲ經タルトキハ地干ト爲シ得ルノ途ヲ設ケタリシカ之ヲ

昨年ノ實況ニ徴スルニ各部寬敷一ナラス 或郡ニ於テハ此特例ヲ應用セシモノ多キニ過キシノ觀アリ蓋シ新規則創施ノ

際ニ於テハ止ムヲ得サルモノアルヘシト雖モ 連年此特例ニ

依ルモノ多數ナルヲ見ルニ於テハ該規則ノ精神ヲ没却シテ

三 地干稻ハ披落シタル後更ニ晴天二日以上必ス蒸干ナ行フコト

第四條 所轄郡市長ノ承認ヲ得スシテ濫ニ地干ヲ爲シ又ハ

第二條第三條ノ制限ニ違背シヌ者ハ科料ニ處ス

米穀乾燥ニ關スル件

(明治三十九年八月 公告 第二二號)

縣下農事ノ改善ハ當局者ノ指導ト當業者ノ精勵トニ因リ著

著其歩ヲ進メツ、アリ而シテ明治三十六年十二月 本縣令第百

二號ヲ以テ米穀乾燥取締規則ヲ發布シテヨリ 既ニ二回ノ收

穫期ヲ經過シタルモ尙ホ架干ヲ厭ヒ地干ノ承認ヲ得ントス

ルモノ尠カラサルハ甚々遺憾トスル處ナリ 元來米穀乾燥ノ

方法種々アリト雖モ架干ノ地干ニ優レルハ今更喋々ヲ要セ

サルナリ當業者宜シク今日ヨリ其材料ノ調達等總テ準備ヲ

米穀乾燥ニ關スル件

之ヲ空文ニ歸セシムルニ至ルヘキノミナラス又一郡ノ不屬行ハ延ヒテ他郡市ニ於ケル改良ヲ阻礙スルノ虞アリ故ニ本年收穫ノ際ニ於テハ各郡一齊ニ勸メテ架干ヲ厲行セシムルヲ圖リ今日ヨリシテ之ヲ農家ニ周知セシメテ相當準備ヲ爲サシメ地干ノ承認ヲ請フ者ニ對シテハ可成收穫時期前餘裕ヲ存スル期日ヲ一定シ以テ調査ノ周到ト併セテ地干ノ許可ヲ得サル者ノ收穫期ニ近ツキテ狼狽スルコトナキヲ得セシメ尙其出願ニ就テハ町村長ハ情弊ノ外ニ立チテ公平精細ニ事實ヲ調査シ郡市長ハ嚴格慎重ニ處分ヲ遂行シテ以テ姑息ノ苟安ヲ倫マス縣民ノ福利ヲ增進セシムルコトヲ期スヘシ

### 米穀乾燥ニ關スル件

(明治四十年八月  
訓令甲第四十一號)

郡市役所 町村役場

米穀ハ本縣主要ノ生産物ニシテ又輸出品ノ最上位ヲ占ムルモノナリ故ニ其ノ品質ノ良否價格ノ高下ハ直ニ施テ管下八十萬人ノ經濟上ニ及ボス影響至大ナルモノアリ是ヲ以テ明治三十六年米穀検査實施ニ先チ縣令第百二號ヲ以テ米穀乾

燥取締規則ヲ發布シ一般當業者ニ對シ稻架干ヲ勵行セシメタリ蓋シ本縣產米ノ一大缺點ハ乾燥ノ不良ニアリ而シテ之カ改良ノ策ハ稻架干ヲ勵行スルニ若クモノナキヲ認メタルニ依ル然レ共縣下ノ廣キ又之ヲ絕對ニ強制スヘカラサルモノアルヲ認メ特ニ除外例ヲ設ケ止ムヲ得サルノ地方ニ在リテハ地干モ亦之ヲ許スコトモ爾來爰ニ三年其ノ實施ノ成績ニ考フルニ當局者ノ熱心ナル指導誘掖ニ依リ多數當業者ノ能ク舊來ノ慣習ヲ打破シ之カ實行ヲ見ルニ至リ米質改良上得ル所夥カラスト雖其ノ間往々所謂架干ノ形式ニ流レ其ノ實質ノ如何ヲ顧ミサルモノアリ或ハ不可能ノ事實ヲ存セスシテ尙ホ且地干ノ除外例ヲ行フモノアルヲ見ル斯ノ如キハ實ニ本縣令發布ノ趣旨ニ反スルノミナラス本縣米製改良上ノ一大缺點ニシテ洵ニ遺憾トスル所ナリ

今同縣令第五十一號ヲ以テ米穀乾燥取締規則中一部ノ改正ヲ行ヒ此等ノ弊ヲ矯正シ眞ニ乾燥ノ實ヲ擧ケ倍々米質ノ改良ヲ圖リ大ニ聲價ヲ各地市場ニ高メシメントス局ニ其ノ職ニ在ルモノ宜シク此ノ意ヲ体シ且從來ノ經歷ニ鑑ミ徒ニ形式ニ拘泥シ却テ目的ニ齟齬スル如キ架干ハ深ク之ヲ警メ又獵ニ除外例ヲ認メテ本則施行ノ精神ヲ阻礙スル等ノコトナ

ク且眞ニ架干不可能ノ地ニ對シ地干ヲ認メタルトキハ本則第三條ノ各項ヲ勵行セシムルコトニ務ムル等米穀乾燥品質改良上總テ遺憾ナキヲ期スヘシ

### 産米改良ニ關スル件

(明治三十八年七月  
告諭 第六號)

明治三十六年十二月ニ發布シタル縣令第百二號米穀乾燥取締規則ハ本縣產米ノ品質ヲ良好ニスル爲メ稻ノ乾燥ヲ七日以上架干ニスヘキヲ本旨トシテ規程シタルモノナルモ土地ノ狀況架干ヲ爲シ難キモノニ限リ特ニ郡市長ノ承認ヲ經テ地干ト爲スコトヲ得ルノ途ヲ開キ置ケリ然ルニ往々土地ノ狀況架干ヲ行ヒ得ルニ拘ラス地干ノ承認ヲ出願スル者アリ斯ケテハ本縣產米ノ改良ハ之ヲ期シ難ク隨ツテ農家ノ福利ハ増進スル能ハサル次第ナレハ本年ハ今日ヨリ注意シテ架干ノ材料ヲ準備シ秋季收穫ノ時ニ至リテ當惑セス勉メテ架干ヲ實行シテ以テ本縣產米ノ聲價ヲ揚ケ利益ヲ享クル様心掛クヘシ

### 堤塘上ノ樹木稻架干用トシテ使用ノ件

(明治三十九年九月  
三米檢收第四八七號ノ三)

各出張所(水見出張所ヲ除ク)

河川法ヲ施行シアル庄川、小矢部川、神通川ノ堤塘上ノ樹木ヲ架干用トシテ使用ノ儀ニ付別紙(別)ノ通り縣知事ノ裁可ヲ得候ニ付テハ不日第四部長ヨリ本文ノ趣キ關係ノ警察官署(別記)へ通報可相成答ニ有之候條爲念此段及通知候也

(別記)

河川法ノ施行シアル庄川、小矢部川、神通川、沿川ニ於ケル町村ハ從來ノ慣行上堤塘上ノ樹木ヲ稻架干トシテ使用シ居リタル處該法實施以來ハ右使用ニ關シ夫々出願許可ノ上ニアラサレハ使用シ得サル次第ナルカ其出願手續ヲ爲スハ農民ノ最モ手數ヲ要シ之カ手續ヲ爲スヘキハ頓欲シテ能ク爲シ得サル實況ニ有之候此樹木ヲ稻架干用ニモ他ニ何等故



堤塘上ノ樹木稻架干用トシテ使用ノ件

勸業委員設置ノ件

三十

陸損害ヲ及ボスノ虞無之而已ナラス 風致ニ關係アル國道線  
上ノ並木ヲ先年來稻架トシテ使用セシメラレタル 實例モ有  
之就中東礪波郡般若村ハ古來堤塘ノ樹木ヲ稻架トシテ使用  
シ來候處河川取締巡查ヨリ禁止ヲ命ジ爲メニ農民ノ苦痛一  
方ナラサル狀況ニ候右使用ニ就テハ相當手續ヲ盡スヘキハ  
勿論ナルモ事ニ慣レサル農民ヲシテ煩ハシキ手續ヲ爲サシ  
ムルハ不便ナルト且ツハ目下乾燥ノ時季ニテ急劇使用ヲ要  
シ出願ノ違無之折柄ニ付先ツ一番堤ハ不時災害急防上ノ關  
係モ有之ヘクニ付之レテ除キ二番堤以下ノ堤上ノ樹木ヲ稻  
架用トシテ使用方ノ義默認セシメラル、コトニ御詮議相成  
度關係村長及村民ノ希望モ有之事情如斯ニ候條 御承認相成  
第四部長ヨリ關係警察官署ヘ本文ノ趣キ 御通報相成度此段  
相伺候也

(第四部長ヨリ關係警察官署ヘ通牒案)

河川取締規程中ノ河川堤防樹木ヲ稻架トシテ使用セムニハ  
前以テ知事ノ許可ヲ受クルヲ要スル儀ニ候ヘトモ一々其ノ  
手續ヲ履マシメントセハ使用者ニ於テ甚ダ困難ヲ感スルノ  
ミナラス其レカ爲メ乾燥ノ時季ヲ失シ大ナル不利ヲ招クニ  
モ至ルヘク候ニ付爾後二番堤以下ノモノニ限り無許可使用

テハ未タ勸業委員ノ設ケナキ町村ニ在リテハ 此際可成其廣  
狹大小ニ應シ一名乃至三名ノ委員ヲ置キ以テ 産業ノ發達上  
遺憾ナカラシムルコトヲ務メラルヘシ

スルモ默認候様取計ハルヘク右依命及通牒候也  
追テ國縣道及縣支辨ニ屬スル並木ヲ稻架ニ使用スル場合  
モ本文ニ準スヘキ儀ト了知可有之候

### 勸業委員設置ノ件

(明治三十七年二月 訓令甲第十一號)

郡市役所 町村役場

町村ニ於ケル産業ノ發達ハ地方ノ富力ヲ増進セシムル所以  
ニシテ之ヲ獎勵ノ一日モ忽ニス可カラサルハ固ヨリ言ヲ俟  
タス而シテ其獎勵上ニ關シ從來幾多ノ縣令又ハ諭達ヲ發シ  
タリシモ其實蹟ニ至リテハ寔ニ遺憾ニ堪ヘサルモノアリ今  
回又縣下ノ重要ノ物産タル米穀改良ノ必要ヲ認メ之ニ關ス  
ル規則ヲ發布セリ郡ニ町村ニ職ヲ奉スルモノハ當然其趣旨  
ノ貫徹ニ助メ實行ヲ圖ルヘキハ勿論ナリト雖モ亦町村ノ名  
望家ニシテ豫メ産業ニ熱心ナル者ヲ舉ゲ勸業委員ト爲シ以  
テ其部内ニ於ケル産業ノ改善ヲ獎勵シ發達ヲ圖ラシムルト  
同時ニ法令ノ普及ヲ務メシムルコト、セハ其成績ヲ舉ケル  
コト容易ニシテ町村ノ富力ヲ進捗スルノ一助トナランカ就

勸業委員設置ノ件

三十一

庶

務

11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45  
46  
47  
48  
49  
50  
51  
52  
53  
54  
55  
56  
57  
58  
59  
60  
61  
62  
63  
64  
65  
66  
67  
68  
69  
70  
71  
72  
73  
74  
75  
76  
77  
78  
79  
80  
81  
82  
83  
84  
85  
86  
87  
88  
89  
90  
91  
92  
93  
94  
95  
96  
97  
98  
99  
100

### ●判任待遇者及無待遇者

#### 懲戒令之件

(明治四十一年五月  
訓令甲第二十六號)

- 知事官房 内務部
- 警察部 郡役所
- 警察署 警察分署
- 伏木測候所 農事試驗場
- 水産講習所 米穀検査所
- 輸出羽二重検査所 疫病豫防事務所
- 公立學校

給料ヲ得テ公務ヲ奉スル者ノ懲戒ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十二年三月勅令第六十三號文官懲戒令ヲ準用ス

### ●米穀検査所職員職務上

#### 注意ノ件

判任待遇者及無待遇者懲戒ノ件

米穀検査所職員職務上注意ノ件

(明治三十七年八月  
廳達第三十六號)

米穀検査所職員一同

凡ソ官公吏タルモノノ守ルヘキ所、要スルニ清廉恪勤ニ在リテ其職務ニ付テハ紀律ノ存スルアレハ之ヲ遵守シテ違ハサルヲ期スルハ當然ノ事ナリト雖米穀検査員ノ如キ親シク當業者ニ直接シテ其利害ニ關係シ及ホスコト多大ナル職務ニ在ル者ハ嚴正ニ情實ノ外ニ立テ苟モ風紀ヲ紊リ廉恥ヲ傷フカ如キコトヲ深ク慎マサル可ラス 又米穀検査ノ事タル本縣ニ於テ創始ノ事ニ屬スルヲ以テ任ニ検査ニ當ル者ハ一層ノ勤勉ヲ以テ精透ノ眼識ト周密ノ注意トニ依リ職務上モ過誤緩漫ナカルヘキヲ期セサル可ラス 若シ事業開始ノ初期ニ於テ成績ヲ擧グル能ハス或ハ流弊ヲ後年ニ貽スカ如キコトアラハ本縣殖産ノ發達ヲ沮害スル尠少ナラサルヘキヲ以テ各自ハ宜シク篤ク戒慎ヲ加フヘシ

### ●職員勤務ニ關スル願届

#### 中場所長ニ於テ處理專

#### 行事項

職員勤務ニ關スル願届申場所長ニ於テ處理專行事項

(明治四十一年四月  
訓令乙第五十三號)

- 農事試驗場 水産講習所
- 伏木測候所 蠶病豫防事務所
- 輸出羽二重検査所 米穀検査所

各場、所長ハ其ノ場、所員勤務ニ關スル願届申左記事項ノ處分ニ限リ專行スヘシ

但除服出仕ニ關シテハ別紙内規ニ據リ取扱フヘシ

一 休暇中旅行ニ關スル件

一 除服出仕ニ關スル件

一 欠勤祭日(亡父母)、遅刻、早退等ノ届ニ關スル件

(別紙)

除服出仕命令内規

第一條 除服出仕ハ總テ定期日ヲ半減シテ命スルモノトス

第二條 事務ニ支障アルトキハ前條ニ依ラス左ノ如ク期日ヲ減スルヲ常例トス

富山縣米穀検査監督員及検査員服制 三十四

- 一 實父母、養父母、夫 七日
- 一 繼父母、祖父母、妻、子、同父母兄弟姉妹 五日
- 一 異父母、兄弟姉妹 三等親(服忌アルモノ) 三日
- 一 以上ノ外 一日

第三條 特別ノ事務ニ服スルモノ又ハ忌服ノ儘出仕ノモノ

ニ對シテハ期日ニ拘ラス直ニ除服出仕ヲ命スルモノトス

第四條 第二條ノ日數ハ父母、夫ノ忌ハ聞計音ニ接シタル

日ヨリ其他ハ死去ノ日ヨリ計算ス若シ該日數經過後ニ於

テ計音ニ接シタルトキハ一日ヲ經テ除服出仕ヲ命スルヲ

例トス

第五條 忌服中更ニ他ノ忌ヲ受クルトキハ第二條期日ノ最

後ニアル方ニ依リ除服出仕ヲ命スルヲ例トス

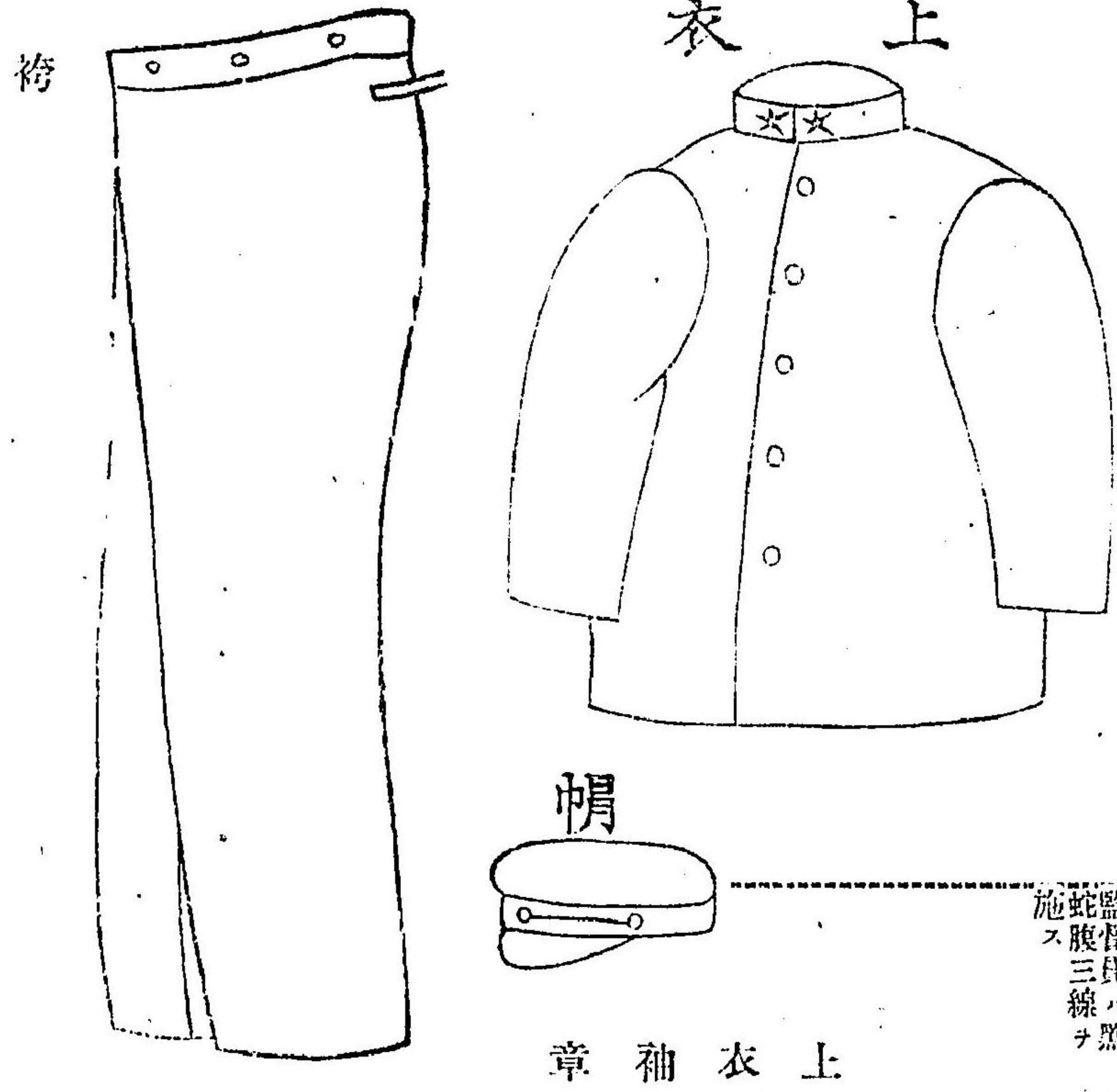
### 富山縣米穀検査監督員 及検査員服制

(明治三十七年八月  
縣令第四十三號)

袴	夏				正								
	衣				帽				袴				
	地	鈕	袖	製	徽	製	地	製	地	鈕	袖	製	地
實	鈕	章	式	章	式	質	式	質	質	鈕	章	式	質
上衣ニ同シ但シ白ヲ用フルコトヲ得	正服ニ同シ	正服ニ同シ	正服ニ同シ	黒若クハカーキ色紺ノ「セル」又ハ小倉地	金色稻穂交叉中ニ檢ノ字(隸書)ヲ附ス 監督員ハ黑蛇腹(巾二分)三線ヲ施シ監ノ字ヲ附ス	圓形ニシテ黑革ノ眼庇及支革ノ兩端各一ヶノ米鈕ヲ以テ留ム圖ノ如シ	上衣ニ同シ	長サ靴踵上又ハ髁上ニ止ル圖ノ如シ	上衣ニ同シ	金色稻穂胸部一行五ヶ立襟兩端ニ米鈕各一ヶ圖ノ如シ	巾三分黒線ニテ米ノ字扇シ袖口ニ寸ヨリ三線ニ並行圖ノ如シ (監督員ハ上部ニ尙一單線ヲ加フ)	脊廣立襟圖ノ如シ	黒若クハ紺ノ羅紗又ハ小倉地

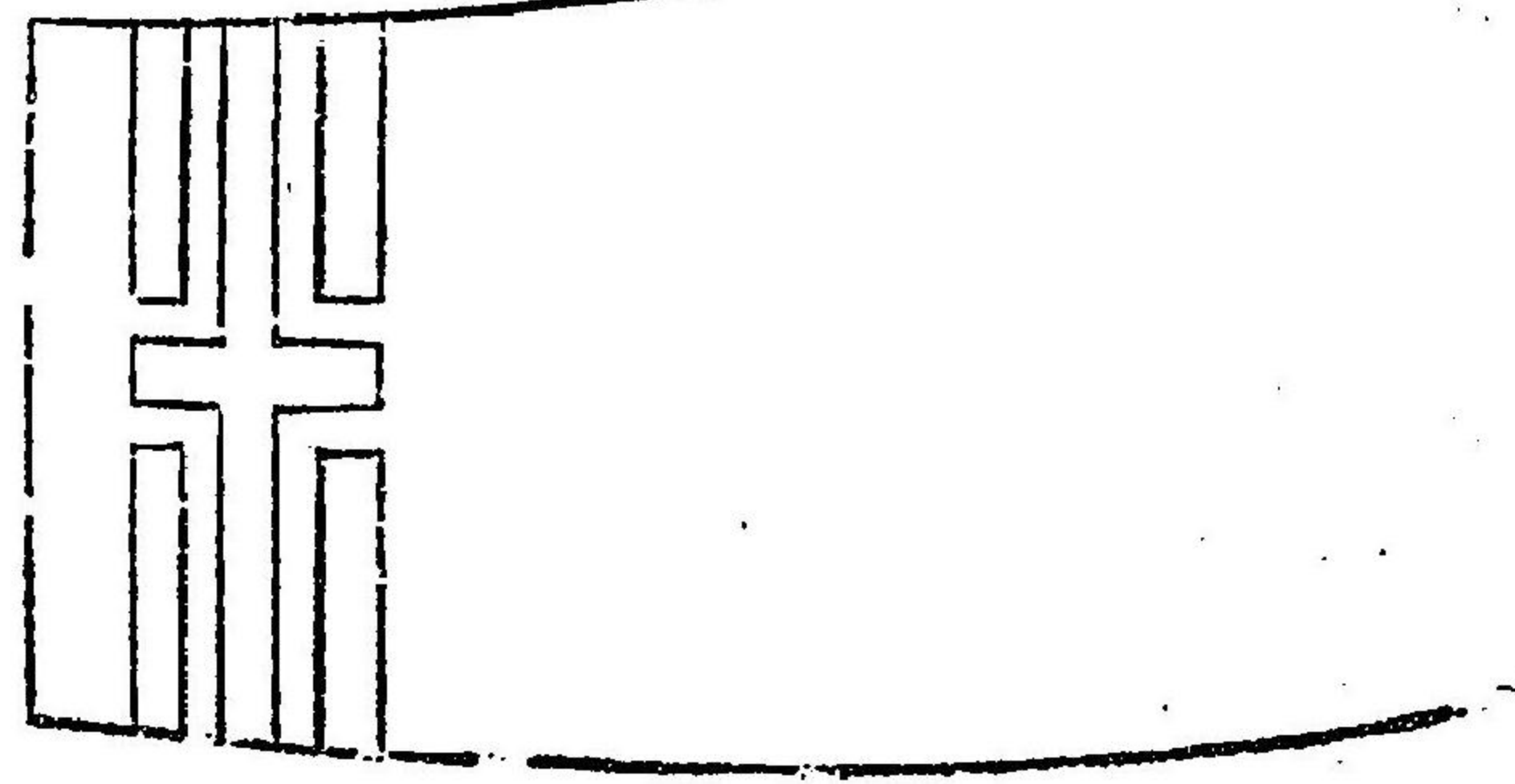
富山縣米穀検査監督員及検査員服制

富山縣米穀検査監督員及検査員服制



章袖衣上

監督員ハ黒  
蛇腹三線ヲ  
施ス



監督員ハ黒線一線  
ヲ加フ

三十七

富山縣米穀検査監督員及検査員服制

服	
帽	製式
製式	正服ニ同シ
正帽ニ白布ヲ蓋フ	

三十六

章徽員督監



章徽員査検



### 米穀検査員及米穀検査所書記採用規程

(明治四十三年七月 告示第五百五十九號)

- 第一條** 富山縣米穀検査員並米穀検査所書記ハ本規程ニ據リ試験又ハ銓衡ヲ爲シ必要ニ應ジ之ヲ採用ス
- 第二條** 米穀検査員ノ採用試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
- 一、作文 (書簡文、記事文)
  - 二、筆蹟 (楷書、行書)
  - 三、算術 (四則筆算、珠算者ハ)
  - 四、米質ノ鑑定
- 第三條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験委員ノ銓衡ニ依リ前條第一號乃至第三號ノ試験ヲ省略スルコトヲ得
- 一、陸海軍下士以上ニシテ現役ヲ終リタル者
  - 二、尋常小學校本科正教員以上ノ教員免許狀ヲ有スル者
  - 三、二箇年以上巡查看守ノ職ニ在リタル者
  - 四、二箇年以上縣郡ノ行政事務又ハ市町村(雇員ヲ除ク)ノ行政事務ニ従事シタル者

- 第四條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ第二條ノ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ニ依リ之ヲ採用ス
- 一、文官任用令第三條第一號乃至第五號ニ該當スルモノ
  - 二、二箇年以上米穀検査事務ニ従事シタル者
  - 三、乙種農學校ヲ卒業シタル者
  - 四、官立道府縣立農事講習所ヲ修了シタル者
  - 五、二箇年以上官立道府縣郡立農事試験場ノ職員タリシ者
- 第五條** 米穀検査所書記採用試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
- 一、作文 (書簡文、記事文)
  - 二、筆蹟 (楷書、行書)
  - 三、算術 (四則筆算、珠算者ハ)
- 第六條** 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ試験ヲ要セス試験委員ノ銓衡ニ依リ之ヲ採用ス
- 一、文官任用令第三條第一號乃至第五號ニ該當スル者
  - 二、乙種農學校ヲ卒業シタル者
  - 三、陸海軍下士以上ニシテ現役ヲ終リタル者
  - 四、尋常小學校本科正教員以上ノ教員免許狀ヲ有スル者

- 五、二箇年以上巡查看守ノ職ニ在リタル者
  - 六、二箇年以上縣郡ノ行政事務又ハ市町村(雇員ヲ除ク)ノ行政事務ニ従事シタル者
- 第七條** 米穀検査員並米穀検査所書記志願者ハ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當セザル者タルヘシ
- 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ滿期後五箇年ヲ經過セザル者
  - 二、官公吏學校職員及各種會社ノ役員等ニシテ不正怠慢ノ爲免職解職セラレタル後滿二箇年ヲ經過セザル者
  - 三、破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セザル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘザル者
- 第八條** 試験ハ三名以上ノ試験委員ヲシテ之ヲ行ハシム
- 第九條** 米穀検査員並米穀検査所書記志願者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ履歷書及市町村長ノ證明書ヲ添ヘ隨時本縣米穀検査所ニ差出スヘシ
- 第十條** 前條ノ證明書ハ族籍、年齢、兵役ニ關スル事項及市町村行政事務ニ従事シタル者ニ在リテハ其ノ職名並在职年月ヲ記シタルモノタルヘシ
- 第十一條** 試験ノ期日並場所ハ期日二十日前ニ之ヲ告示ス

- 第十二條** 受験者ハ試験ノ際試験委員ノ命令指揮ニ違背スルトキハ試験ヲ拒絕スルコトアルヘシ
- 第十三條** 受験者ハ試験當日其ノ必要品ヲ携帯スヘシ
- 第十四條** 履歷書中事實ヲ隱蔽欺瞞シタル者又ハ不正ノ方法ヲ以テ試験ニ合格シタル者ハ其ノ合格ヲ無効トス
- 第十五條** 試験合格者ニハ合格證書ヲ付與シ其ノ氏名ハ試験ヲ終リタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ告示ス
- 第十六條** 米穀検査所書記ニ採用スル場合ニ於テハ特ニ富山縣公民ニシテ所得稅ヲ納ムル者ニ名ヲ身元保證人ニ立テシムルコトアルヘシ
- 受験(採用)願
- 私儀富山縣米穀検査員(米穀検査所書記)志願ニ付御試験(御採用)被成下度別紙履歷書及證明書相添此段相願候也
- 年 月 日
- 現 住 所
- 氏 名 印
- 生 年 月 日
- 富山縣知事 宛
- (第二號書式)
- 履 歷 書
- 三十九

何府縣華族士族平民

氏 名

生年月日

本 籍

一、何府(縣)何郡(市區)何町(村)何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父等

學 事

一、何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル  
 一、何年何月ヨリ何地官私立學校ニ入り何學科ヲ修メ何年何月卒業ス其ノ證書寫別紙ノ如シ  
 一、何年何月何學校若ハ何處ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其ノ證書若ハ免許狀寫別紙ノ如シ  
 職 業  
 一、何年何月何日官私立何學校何科教員(俸給何圓)トナリ教授ニ從事シ何年何月辭職  
 一、何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命(俸給何圓)何年何月何日マテ何々ノ事務ニ從事シ何年何月何日辭職  
 一、何年何月ヨリ何地何會社(給料何圓)ニ備ハレ何々ノ業

務ニ從事シ何年何月解備

何年何月何圓ニ増給減額

一、何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス

賞 罰

一、何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ賞ヲ受ケ  
 一、何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ニ依リ罰ヲ受ケ  
 右ノ通相違無之候也

年 月 日

氏 名 印

米穀検査出張所名稱位置

(明治三十八年六月 告示第百十八號)

出張所名稱	位 置	検査員駐在所	管 轄 區 域
富山出張所	富山市今町	堀川村	富山市(愛宕元町)堀川村
		山室村	山室村
		奥田村	奥田村
		西吳羽村	西吳羽村、長岡村
		東吳羽村	東吳羽村、櫻谷村、 富山市、愛宕元町
		新庄町	新庄町
		廣田村	廣田村
		島村	島村
		太田村	太田村
		蟻川村	蟻川村
		鶴坂村	鶴坂村、神明村
		速星村	速星村
		朝日村	朝日村

米穀検査出張所名稱位置

























米穀検査所米穀検査出張所處務細則

何月何日	粳精	籼入	五
同	糯支		
同	糯精		
通計			

右及報告候也

何出張所詰

検査員 何 某 印

年 月 日  
何出張所主任

検査員 何 某 宛

通計ハ種別毎ニ附スヘシ (以下同シ)

(乙號様式)

産米検査報告表

何年生産米

市町村名	検査月日	種別	總數	合格	不合格	備考	受檢人員
				上米	中米		

通計

右及報告候也

何出張所詰

検査員 何 某 印

年 月 日  
何出張所主任

検査員 何 某 宛

(丙號様式)

自何月何日 至何月何日 輸出来検査成績表

何年生産米

出張所名	種別	總數	格				仕向先	備考	受檢人員
			一等	二等	三等	四等			
通計									

右及報告候也

何出張所主任

検査員 何 某 印

年 月 日  
富山縣米穀検査所長 何 某 宛

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

(丁號様式)

自何月何日 産米検査成績表  
至何月何日

何年生産米

六十四

市町村名	種別	總數	合格		不合格	備考	受檢人員
			上米	中米			
通計							

右及報告候也

何出張所主任

検査員 何

某 印

壹號

年 月 日  
富山縣米穀検査所長 何 某 宛

稻種盪水撰

報告期限隨時

市町村名	反稻作總別	稻作總戸數	所要種量	盪水撰實行戸數	同總量	浮總量	備考
計							

(注意) 數字以外ニ於ケル必要ノ事項ハ本表備考欄若クハ別ニ之ヲ記スヘシ以下同シ  
右及報告候也

何々所(何出張所主任)

検査員 何

某 印

年 月 日

何出張所主任(富山縣米穀検査所長)宛  
以下同シ

貳號

稻苗代

同 隨時

市町村名	苗代箇所數	同上總反別	認可濟五畝歩以內ノ苗代ヶ所數	一步ニ對スル播種程度			備考
				最	多	最少	
計							

參號

稻苗正條植

同 隨時

市町村名	稻作總反別	稻作總戸數	正條植實行反別	正條植實行戸數	備考
計					

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

六十五

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

六十六

四 號

稻病害虫發生

同 隨時

市町村名	發生病害虫ノ種類	發生ヲ認メタル月日	發生區域	蔓延ノ程度	備考
計					

五 號

田稗(餓鬼稗)拔取

同 隨時

市町村名	拔取見積反別	一反歩拔取數量	取締規則ニ依リ處罰セラレタル數	備考
計				

六 號

綠肥栽培

同 七月末日限リ

市町村名	栽培反別	一反歩平均收量	前年栽培反別	備考
計	紫雲英 大豆 其他	反反		

七 號

稻作ニ對スル主要肥料及石灰ノ施用高

同 九月末日限リ

市町村名	主要肥料	施用高	石灰施用高	備考
計	人造肥料 海産肥料 糞類	灰	糞	

八 號

主ナル稻作反別及收穫高

同 十一月末日限リ

市町村名	作付反別	收穫高	一反歩收穫高	備考
計	大場 石白 郡益 何々	大場 石白 郡益 何々		

九 號

米穀收穫及消費高

同 翌年二月末日限リ

市町村名	作付反別	收穫高	消費高	産米検査豫想高	生産者ノ人口
計					

(注意) 一反歩收穫ハ上中下ノ一歩收量ヲ平均シテ之ニ三百歩ヲ乘シテ定ムヘシ

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

六十七

米穀検査所米穀検査出張所處務細則

一〇號

堆肥

市町村名	農戸數	前年未	本年建設	本年	備考
計		舍數	舍數	製造數量	

一一號

陸樹伐採

同 隨時

市町村名	伐採樹數	伐枝採	取縮規則ニ依リ處	備考
計		數條	罰セラレタルモノ	

一二號

稻乾燥

同 十一月末日限り

市町村名	稻作反別	架干反別	地干反別	取縮規則ニ依リ處	備考
計				罰セラレタルモノ	

別記(米穀検査所米穀検査出張所處務細則第十七條ニ因ル)

細則

富山縣處務細則

(明治四十一年七月 廳達第十五號)

廳中一般

(第一條ヨリ第八條マテヲ省ク)

第三章

文書ノ收受發送

第九條

開廳時間ニ於テ本廳ニ到達スル文書ハ知事官房ニ於テ收受シ親展書ノ外ハ之ヲ開封查閱シ件名簿ニ登記シテ主務課長又ハ掛長ニ(官房主事ヲ含ム以下做之)配附スヘシ主務課長及掛長共ニ缺員若ハ不在ノトキハ其ノ課又ハ掛ノ首席者ニ配附スヘシ

但シ機密事項ニ關スルモノハ機密件名簿ニ登記シテ主務部長若クハ課長ニ配附スヘシ

到達文書中災害ノ即報ニ係ルモノ及工事ノ入札書ノ表記アルモノハ直ニ主務課長(災害ノ即報ハ郡役所市役所ノ分ハ地方課長、工區主任ノ分ハ土木課長、警察官署ノ分ハ保安課長)ニ配附スヘシ

但シ工事ノ入札書ハ之ヲ開封セス其ノ收受者ニ於テ到達

六十九

ノ日時ヲ記載シ捺印スルヲ要ス

第十條

知事官房ニ於テ現金、金券、證券ヲ收受シタルトキハ之ヲ金券收受簿ニ登記シ直ニ會計課長ニ交付シ文書ノミチ前條ニ依リ取扱フヘシ

圖書、物品等ヲ收受シタルトキハ物品收受簿ニ登記シ之ヲ主務課ニ交付スヘシ

第十一條

親展書ハ官房主事ニ於テ收受シ封緘ノ儘宛名ノ者ニ配附スヘシ

電信ハ官房主事ニ於テ收受シ親展ノモノハ前項ニ依リ親展ナラサルモノハ開封ノ上主務部長ニ交付スヘシ

開封後ノ親展書及電信ハ更ニ第九條ニ依リ取扱フヘシ但シ警察機密事項ニ關スルモノハ官房主事ヨリ警察部長若クハ當該課長ニ交付スヘシ

第十二條

開廳時間外ニ於ケル文書物品ノ收受發送ハ別ニ定ムル所ノ宿直規程ニ依リ宿直者ニ於テ之ヲ處理ス

第十三條

閣省ノ訓令通牒其ノ他重要ノ文書ハ知事官房ニ於テ先ツ知事及主務部長ノ閱覽ニ供シタル後第九條ニ依リ取扱フヘシ其例規トナルヘキ訓令通牒ハ正本ヲ知事官房ニ保存シ謄本ヲ主務課長ニ交付スヘシ

六十八

富山縣處務細則

第十四條 部課ニ於テ直接ニ文書ヲ收受シタルモノアルトキハ更ニ之ヲ知事官房ニ回付シ第九條ノ手續ヲ經ルヲ要ス

第十五條 部課ニ於テ配付ヲ受ケタル文書ノ主管ニ付異議アルトキ若ハ他部課ヘ移送セントスルトキハ必ス知事官房ニ通告シ又ハ經由スルヲ要ス

第十六條 訴願訴訟其ノ他期日ヲ限定セラレタル文書ヲ收受シタルトキハ其ノ收受者ニ於テ特ニ文書到達ノ日時ヲ欄外ニ記載シ之ニ捺印シ且其ノ封筒ヲ添附シ置クヘシ

第十七條 要急文書ニシテ差出人ノ力ヲ處理ヲ待ツ者アルトキハ爲待置ノ文字ヲ其欄外ニ標記シ速ニ之ヲ處理スヘシ

第十八條 知事名及縣名ヲ以テ發送スヘキ文書ハ知事官房ニ於テ淨書校合ノ上發送スヘシ  
計算書、取調書、裁決書、訴訟書、圖表ノ類及發送文書ニ添附スヘキ別紙書類ハ主務課ニ於テ淨書校合ノ上原議ト共ニ知事官房ニ交付スヘシ

知事官房ニ於テ普通往復文以外ノ事項ニ屬スト認メタルモノ亦前項ニ同シ

第十九條 機密事項ニ關スル發送文書ハ官房主事ニ於テ之ヲ淨書發送シ警察機密事項ニ關スル發送文書ハ警察部當該主任ニ於テ之ヲ淨書發送スヘシ

第二十條 部長若ハ部名ヲ以テ發送スル文書ハ各課ニ於テ之ヲ淨書校合シ知事官房ヲ經テ發送スヘシ

第二十一條 知事官房ニ於テハ發送文書ヲ件名簿ニ登記シテ事件ノ經過ヲ明カニシ又發送封書ノ量目、郵税、宛名、發送者、受信者等ヲ文書發送簿ニ登記スヘシ  
現金、金券、證券、圖書、物品等文書以外ノ發送物ハ之ヲ物品發送簿ニ登記スヘシ

第二十二條 發送ヲ終リタル文書ニシテ未完結ノ原議ハ主務者ニ返附シ件名簿ニ其ノ捺印ヲ受クヘシ

第二十三條 收受發送ノ文書ニ附スヘキ番號ハ歲首ニ始マリ歲尾ニ終ル  
同一事件ニシテ往復二回以上ニ至ルモノハ同番號ノ下更ニ順次數字ヲ加フ

第四章 事務ノ處理  
第二十四條 主務課長ニ於テ文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ主務者ヲ指定シテ之ヲ處理セシムヘシ

代用スルコトヲ得

第二十九條 主務者回議按テ起草シタルトキハ掛員ノ合議ヲ經タル上課長ヲ經テ部長ニ提出スヘシ

第三十條 事件ノ數課ニ關聯スルモノハ其ノ關係最モ重キ課ニ於テ處理シ他部課ニ合議スヘシ

第三十一條 他課ヨリ合議ヲ受ケタル回議ハ即日調査ヲ了シ異議アルトキハ面談商議スルヲ要ス若シ合議協ハサルトキハ各其意見ヲ陳述シテ部長若ハ知事ノ裁決ヲ受クヘシ

第三十二條 縣令、告示、告諭、訓令其ノ他縣報ニ掲載スヘキ事項ニ係ル回議ハ知事官房ニ合議スヘシ  
但シ縣報ニ掲載セサル訓令、内訓及達ニ係ル回議亦同シ

第三十三條 左ノ事項ニ關スル回議ハ部課長認印ノ上部長ニ充テラレサル事務官ニ合議スヘシ  
一 縣令規定告諭及訓令ニ關スル事項  
一 法律命令疑義ニ關スル事項  
一 訴願及訴訟ニ關スル事項  
一 縣會及縣參事會ノ議案並諮問案ニ關スル事項

第二十八條 成規定例アルモノハ便宜帳簿ヲ製シ回議按ニ記シ主務者之ニ捺印スヘシ

第二十七條 檢閱ニ止ムヘキ文書ハ其餘白ニ回覽ニ供スヘキ官氏名ヲ朱記シ提出スルコトヲ得  
但シ計算、登簿及精査ヲ要スルモノハ精査濟登簿濟ト

第二十六條 原議ハ所定ノ用紙ヲ用井起首ニ於テ簡明ニ處分ノ理由ヲ解説シ次ニ處分按ヲ記載スヘシ  
但シ輕易ノ事項ハ單ニ處分按ノミヲ記載シ若ハ到達文書ノ餘白ニ處分按ヲ具シ提出スルコトヲ得

第二十五條 前條ニ依リ指定セラレタル主務者ハ即日處理ニ着手スヘシ若シ調査上處理シ難キモノハ其ノ理由ヲ具シ部長ノ承認ヲ受クヘシ  
前條延期ノ承認ヲ受ケタルモノハ知事官房ニ通告スルヲ要ス

但シ重要ノ事項ハ先ツ主務部長ノ旨ヲ承ケ災害ノ即報ニ付キテハ課長ハ直ニ持廻リニテ知事各部長（警察官署ノ分ニシテ地方課土木課ニ關係アルトキハ各當該課長ニモ）回覽ニ供スルヲ要ス

富山縣處務細則

- 一 行政區畫ニ關スル事項
  - 一 條例規約及定款ニ關スル事項
  - 一 土地收用及官民有未定地處分ニ關スル事項
  - 一 前各項ノ外主要ト認ムル事項
- 第三十四條 至急裁決ヲ要スル原議ニハ赤色ノ紙片ヲ貼附シ又事件ノ最も重要ナルカ若ハ異例ニ係ルモノニハ黃色ノ紙片ヲ貼附シテ之ヲ標識スヘシ
- 施行上親展、書留又ハ至急ヲ要スルモノハ文書欄外右方上頭ニ其ノ旨ヲ朱記スヘシ
- 第三十五條 機密ニ涉ル文書ハ特ニ取扱ヲ慎重ニシ相當表シヲ爲シタル封筒ニ入レ若ハ欄外ニ秘字ヲ朱書シ主務者自ラ携帶回議スヘシ
- 第三十六條 同一事件ノ往復文書ハ必ス之ヲ原議ニ合綴スヘシ
- 同一事件ナルモ收受發送番號ヲ異ニスル文書ハ各別ニ處理スルコトヲ得
- 第三十七條 關省ニ報告ヲ要スル命令發布ノ起按ハ其ノ旨ヲ欄外ニ朱記スヘシ
- 前項報告ハ更ニ經何ヲ要セス知事官房ニ於テ命令發布後

- 速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三十八條 訂正ノ爲申出ニ依リ却下スル文書ハ附箋ヲ以テ返送スルコトヲ得
- 第三十九條 裁決濟ノ文書ハ知事官房ニ於テ之ヲ受ケ主務者ニ返附スルモノトス
- 第四十條 主務者ニ於テ前條裁決濟文書ノ返附ヲ受ケタルトキハ之ヲ點檢シ裁決年月日及完結未完結ノ別ヲ記入シ發送及編纂ノ爲知事官房ニ交付スヘシ
- 第四十一條 知事官房ニ於テ前條裁決濟文書ヲ接受シタルトキハ發送スヘキモノハ即日發送ノ手續ヲ爲シ其ノ發送ヲ要セサル完結文書ハ件名簿ニ其ノ旨ヲ登記シ編纂ノ手續ヲ爲スヘシ
- 但シ退廳時刻前一時間後ニ接受シタルモノニシテ至急ヲ要セサル文書ハ翌日之ヲ發送スルコトヲ得
- 第四十二條 知事官房ニ於テハ毎十日延滯事件ヲ調査シ主務課長ヘ合議ノ上部長ヲ經テ知事ノ閱覽ニ供スヘシ
- 第四十三條 知事官房ニ於テハ月首毎ニ前月中ノ處理事件ヲ計算シ月計表ヲ製シ又年首毎ニ前年中ノ處理件數表ヲ製シ主務課長ヘ合議ノ上部長ヲ經テ知事ノ閱覽ニ供スヘシ

- シ
- 第四十四條 總テ文書ハ知事若ハ部長ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ之ヲ廳外ノ者ニ示シ又ハ謄本ヲ與フルコトヲ得ス
- 第四十五條 文書編纂保存規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第五章 服 務 心 得
- 第四十六條 廳員昇廳シタルトキハ先ツ知事官房備附ノ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 昇廳時限ヲ過キ出勤シタル者ハ知事官房備附ノ遲參簿ニ捺印スヘシ
- 但公務ノ爲遲參シタル者ハ其事由ヲ陳述シ官房主事ノ承認ヲ受ケ出勤簿ニ捺印スヘシ
- 第四十七條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ參廳シ難キ者ハ當日昇廳時限後三時間以内ニ其事由ヲ具シ届出ツヘシ
- 缺勤者ハ自己擔當事務ノ申至急ヲ要スルモノアレハ課長ニ申告シ事務ヲシテ延滞セシムヘカラス
- 第四十八條 缺勤一週間ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出ツヘシ爾後十日ヲ經ル毎ニ同上ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第四十九條 執務時間中發病シ又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ退廳セントスル者ハ其ノ事由ト退廳時刻トヲ具シ届出ツヘシ
- 第五十條 執務時間中廳外ニ出ツルトキハ公私用ニ拘ハラヌ部長又ハ課長ニ申告シ許可ヲ受クヘシ
- 第五十一條 缺勤、遲參、早退ハ知事官房ニ於テ之ヲ調査シ帳簿ヲ以テ每翌朝主務部長ヲ經テ知事ノ一覽ニ供スヘシ
- 第五十二條 退廳後又ハ休日ニ昇廳シタルトキハ其事由ヲ宿直員ニ申告スヘシ其ノ退廳スルトキ亦同シ
- 第五十三條 退廳時刻ヲ經過スルモ知事官房ニ於テキハ特命アルニアラサレハ隨意退廳スルヲ得ス
- 第五十四條 退廳ノトキハ書類物品ヲ整理取藏シテ散亂セシムヘカラス殊ニ緊要ナル簿冊文書ハ別箇ニ収メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置クヘシ
- 第五十五條 忌引届ニハ其ノ親族關係及死亡ノ月日ヲ明記スヘシ
- 第五十六條 父母祭日ニ當リ參廳セサルトキハ其ノ前日ニ於テ届出ツヘシ

富山縣處務細則

富山縣處務細則

第五十七條 轉地療養參事若クハ歸省等ノ爲旅行セントスル者ハ往復滞在ノ日限ヲ定メ旅行先ヲ記シ事由ヲ具シテ出願許可ヲ受クヘシ其ノ轉地療養ヲ爲サントスル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第五十八條 出張巡回ヲ命セラレタルトキハ吏員發歸簿ヲ以テ出發歸廳トモ知事官房及會計課ニ通知スヘシ

第五十九條 出張巡回ヲ命セラレタル者豫定ノ日ニ於テ出發若ハ歸廳スルコト能ハサルトキハ其ノ豫定期日前ニ於テ認可ヲ受クヘシ

出張巡回ナラズハ歸廳シタルトキハ五日以内ニ復命書ヲ作り提出スヘシ

但シ事ノ輕易ナルモノハ口頭復命スルコトヲ得

知事又ハ部長ニ隨行ノ場合ハ前項ノ限ニアラス

第六十條 吏員新任ノトキハ三日以内ニ履歷書(式ニ依リシ認ム)及住所届印鑑届(八寸紙)ヲ知事官房ニ提出スヘシ其ノ改氏名、轉居、改印等ノ事故アリタルトキ亦同シ

第六十一條 吏員ノ職務及身分ニ關スル願出ハ課長及部長ヲ經テ官房主事ニ提出スヘシ

第六十二條 執務時間外ニ於テ縣廳近傍ニ火災又ハ非常ノ事變アリタルトキハ速ニ參廳シ知事若クハ上官ノ指揮ヲ受クヘシ

但シ參廳シタルトキハ宿直員ニ名刺ヲ出シ又ハ簿冊ニ記名ヲ爲スヘシ

縣廳ノ近火ニアラサル風勢猛烈又ハ大火ト認ムルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ事急劇ニ迫リ指揮ヲ待ツノ暇ナキトキハ宿直員參廳員ニ於テ臨機ノ處置ヲ爲シタル後事情ヲ知事若クハ上官ニ具申スヘシ

參廳ノ吏員ハ退散ノ命令ナキ間ハ退廳スルコトヲ得ス

第六十三條 鎖鑰其ノ他特ニ宿直員ノ保管ヲ要スルモノハ封印ヲ施シ宿直員ニ引渡シ其ノ封印ヲ撤シ置クヘシ

第六十四條 宿直ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 回議案例式

第六十五條 第二十六條ノ回議案起草文例及第三十八條ノ文書附箋却下經伺案文例等左ノ通(自第一號書式)之ヲ定ム

輕易ナル事件ニシテ照會又ハ回答ヲ要スヘキモノノ處理

ニ付テハ文書ノ餘白ニ發スヘキ照會回答ノ要領ヲ摘記シ發送セントスル文書ヲ主務者ニ於テ淨書添附シテ原議所定ノ箇所(第二號書式)ニ裁決ヲ受クヘシ

但シ例文指令、如キハ添附ニ及ハス

電信回議ハ所定ノ用紙(第三號書式)ニ認メ知事官房ニ合議スヘシ

知事官房ニ於テ前項合議ヲ受ケタルトキハ意見ヲ變ヘサル範圍内ニ於テ適宜修正スルコトヲ得

書類ノ謬謬、違式等ヲ訂正セシメンカ爲却下セントスル(第一號書式)

トキハ附箋乙號(第四號書式)ヲ以テ要領ヲ記載シ其ノ訂正ヲ要スヘキ箇所ニ貼付シ附箋甲號(第四號書式)ヲ以テ裁決ヲ受ケ附箋ノ儘却下スルモノトス

問答用紙ニ依リ照會スルトキハ所定ノ(第五號書式)用紙ヲ用井部長、課長、主務等ノ認印ハ欄外右傍上半部ニ捺シ年月日及番號等ハ指定ノ印刷箇所ニ記入シ欄内ニハ單ニ照會ノ要領ノミヲ摘記スヘシ

但シ宛名ノ記載方ハ其ノ官職名ノミニ止ムヘシ

結	未完	明治	年	日	受附	明治	年	日	裁決	明治	年	日	施行	號	合校	寫淨
	何々、	何部	課長	掛員	掛員	誰	印	何部課主務官	何	何々課長	掛員	掛員	何々課長(合議ノ例)	掛員	相成可然哉	

富山縣處務細則



此段相伺候也

案

(何々ノ件通牒照會、回答、上申、報告)

年月日

知事、縣名又ハ何々

何官(何役所)何々殿

(御 中)

何々、ハ、ハ、ハ、(通牒文)(照會文)(回答文)(上申文)(報告文)ヲ記シ此段及通牒(照會)(回答)(上申)(報告)候也

(第二號書式)

(文書ノ餘白ニ裁決ヲ受クル例)

知事

何々課長

掛員

主務

何部長

何々課長

(合議ノ例)

掛員

本照會ノ統計書(縣治一班)(何々)回送(又ハ餘備無之ニ付求メニ應シ難キ旨回答)要領ヲ摘記シ置クモノトス

(第三號書式)

明治 年 月 日 受附 明治 年 月 日 裁決 明治 年 月 日 施行 號 合校 寫淨

明治何年何月何日出

何部課主務官

何 誰 印

知事

何々課長

掛員

何部長

何々課長(合議ノ例)掛員

何々ノ儀ニ付回議

何々(事由)ニ付發電相成可然哉相伺候也

紙 用 案 信 電

受信人

(假名ヲ附スルコト) 何 誰

發信人

(符號ヲ用ウヘキモノハ符號否ラ) (サルモノハ假名ヲ附スルコト) 何 誰



富山縣處務細則

第五號書式

(即答用紙裁決並照會ノ例)

何々部長	何々課長	掛員	主務
明治 年 月 日	何々郡市長 (何々役所) 殿	何々 號	富山縣
問		返	答

此ノ照會書ノ送附ヲ受ケタルモノハ即時返答ヲ爲スヘシ毫モ稽留ヲ許サズ

(第六十六條第六十七條ヲ省ク)

第六十八條 收受發送文書ノ番號及部長名部名ヲ以テ發スル文例ハ左ノ如シ

官 號 知事官房主掌事務ニ付收受及發議シタルモノ

秘 號 機密文書ノ收受及發議シタルモノ

地(土) 號 各部課主掌事務ニ付收受及發議シタルモノ

警 號 警察機密事務ノ收受及發議シタルモノ

動 號 陸軍召集事務ニ付收受及發議シタルモノ

△何何號 何々、何々ノ件通牒(照會)(回答) (△印ハ朱書)

年月日 何部長

官職氏名殿 官氏名印

又ハ 部 名印

何官公署 御中

何々、(照會文)(回答文)此段及通牒(照會)(回答)候

富山縣處務細則

御中

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣知事 氏 名印

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣處務細則

也

第六十九條 閣省進達文書ハ左ノ文例ニ依ルヘシ

△何 何號 何々ノ儀ニ付伺(稟請)(上申)(内申)(副申)(届)

(報告) (報告) 富山縣知事 氏 名印

年月日 何大臣爵學位氏名殿

何々、此段相伺(及稟請)(上申)(内申)(副申)

(御届)(報告)候也

第七十條 院廳府縣其ノ他各官廳各省局課長書記官秘書官

等ノ往復文書ハ左ノ文例ニ依ルヘシ他廳往復ノ文書中

事ノ輕易ナルモノハ便宜縣名ヲ署スルコトヲ得

△何 何號 何々ノ件ニ付問合(照會)(依頼)(回答)(通知)(申

進) (△印ハ朱書)

年月日 富山縣知事 氏 名印

何官爵氏名殿

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣知事 氏 名印

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣處務細則

御中

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣知事 氏 名印

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣處務細則

御中

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣知事 氏 名印

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣處務細則

御中

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣知事 氏 名印

又ハ 縣 名印

何 廳(府縣) 縣 名印

富山縣處務細則

富山縣文書編纂保存規程

御中

何々、(照會、依頼、回答、通知、申進文ヲ記ス) 此段及問合(照會)(依頼)(回答)(通知)(申進)候也 別記(米穀検査所米穀検査出張所庶務細則第十八條ニ因ル 規程)

富山縣文書編纂保存規程

(明治三十八年六月 應達第三十八號)

廳中一般

第一條 本廳一切ノ文書ハ知事官房ニ於テ此規程ニ依リ編纂保存スヘシ

秘密文書及計算書類ハ各主務課ニ於テ此規程ニ依リ編纂保存スルコトヲ得此場合ニ於テハ主務課ニ於テ其書目及保存期限ヲ定メ知事官房ニ合議ノ上知事ノ裁決ヲ受クヘシ

第二條 文書ハ保存期限ニ依リ左ノ四種トス

- 第一種 永年保存スヘキモノ
- 第二種 十箇年間保存スヘキモノ

第三種 五箇年間保存スヘキモノ

第四種 一箇年間保存スヘキモノ

第三條 文書保存期限ノ計算ハ其文書ノ處理完結シタル翌年ヨリ起算ス

但會計年度ニ屬スルモノハ其翌年度ヨリ起算ス

第四條 各課ニ於テ完結文書ヲ知事官房ニ送付スルトキハ

第二條ノ種別ニ依リ文書ノ欄外ニ左ノ標印ヲ捺スヘシ

永年保存

十年間保存

五年間保存

一年間保存

知事官房ニ於テ主務課ノ指定シタル保存年限ニ付異議アルトキハ該課ニ協議ヲ送ケ其期限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五條 知事官房ニ於テ完結文書ヲ受ケタルトキハ其文書ノ番號ニ因リ件名簿ヲ整理シ逐次假編綴ヲ爲スヘシ

文書ノ假編綴ハ知事官房及各課ニ區別シ特別ノ區別ヲ要スルモノハ主務課ト協議ヲ送ケ文書ノ完備セサルモノアルトキハ其主務者ニ就キ訂正完備ヲ求ムヘシ

第六條 凡ソ文書ハ曆年ヲ以テ分界トシ第二條ノ種別ト第一條ノ書目トニ依リ完結ノ月日ヲ逐フテ編纂スヘシ

但會計ニ屬スルモノハ會計年度ヲ以テ分界トス

第七條 前條ノ文書中紙數ノ多寡ニ依リ其一箇年分ヲ便宜分綴シ又ハ數目ヲ合纂スルコトヲ得

但分綴シタルトキハ便宜(甲)(乙)又ハ(一)(二)等ノ符號ヲ付シ合纂シタルトキハ其數目ヲ標記スヘシ

第八條 完結文書ハ其處分ノ結了シタル年ノ翌年三月迄ニ

第二號及第三號ノ様式ニ依リ編綴裝釘スヘシ

第九條 一事件ニシテ數種目ニ關聯スルモノハ其關係ノ最も重キ種目ニ編入スヘシ

但此場合ニ於テハ關係種目ノ目錄ニ其編入種目ヲ記註スルヲ要ス

第十條 臨時必要ニ依リ調査シタル書類及繪圖面計算書其他特別保存ヲ要スル文書ニシテ普通文書中ニ編入スヘカラサルモノ及製本シ能ハサルモノハ便宜帙又ハ紙袋等ニ

收メ若ハ紐索ヲ以テ結束シ其書目番號ヲ標記シ別ニ之ヲ收藏スヘシ

第十一條 第一種ノ文書ハ卷首ニ第二種及第三種ノ文書ハ別ニ索引目錄(第三號)ヲ調製シ第四種ノ文書ハ適宜編綴シテ閱覽ニ便ナラシムヘシ

第十二條 知事官房ニハ便宜ノ場所ニ閱覽席ヲ設ケ各主務

富山縣文書編纂保存規程

者ノ請求ニ應ジ文書ヲ展示スヘシ閱覽者止ムヲ得サル事由アリテ文書ヲ席外ニ携出セントスルトキハ保存主務者ノ承認ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ第四號様式ニ依リ簿冊ニ記入スルヲ要ス

前項ニ依リ借入レタル文書ハ三日以内ニ必ス返納スヘシ

第十三條 文書ハ廳外ニ携出スルヲ許サズ

但止ムヲ得サル事由アリテ廳外ニ携出セントスルトキハ豫メ期限ヲ定メテ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條 廳外ノ官吏吏員又ハ諸會社等ノ役員ニシテ文書ノ閱覽ヲ求ムルコトアルトキハ官房主事ハ主務課長ト協議ノ上閱覽セシムルコトヲ得

但事體ノ稍重キモノ又ハ秘密ヲ要スル文書ハ知事ノ指揮ヲ受クヘシ

第十五條 知事官房ニ於テ文書ノ編纂ヲ終リタルトキハ其標題並冊數ヲ知事ニ開申スヘシ

第十六條 保存期限ヲ終リ棄却ヲ要スル文書ハ知事官房ニ於テ之ヲ點檢シ關係ノ主務課ニ合議シ知事ノ裁決ヲ得テ會計課ニ引繼キ索引目錄ニハ何年何月廢棄ト記註スヘシ

會計課ニ於テ前項ノ文書ヲ受ケタルトキハ不取締ナキ様

富山縣文書編纂保存規程

之ヲ截斷シテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第十七條 保存ノ文書ハ毎年一回夏季若ハ秋季ニ於テ曝書  
ヲ爲シ平素蠶魚ノ蝕害濕氣ノ侵入等ノ豫防ニ厚ク注意ス  
ヘシ

第十八條 知事官房及各課ニハ文書保存主任ヲ定メ置クヘ  
シ  
(第一號表ヲ省ク)

第二號樣式

表紙記載ノ例

明治何年(又ハ明治何年度)	番 號
何 何 何 (標題ヲ記載ス)	何册ノ内甲(乙)(丙) (一目ヲ數册ニ分ケタルトキノ例)
何 何 何 (數目ヲ合シテ一册ト爲シタルトキノ例)	富 山 縣

第三號樣式

目錄記載ノ例

宛名若ハ願何 届者氏名	件	名	年 月 日	檢 出 號
何大臣へ	何	稟 申	何年何月何日	一
何局長へ	何	照 會	何年何月何日	二

富 山 縣

第四號樣式

文書貸付簿

何郡市長ヨリ	何	々	稟 請	何年何月何日	三
何町村長ヨリ	何	々	具 狀	何年何月何日	四
何町(村) 何某ヨリ	何	々	願(届)	何年何月何日	五
縣令第何號	何	々	規 則	何年何月何日	六
訓令第何號	何	々	々	何年何月何日	七

備考 原文書ニハ逐次下段ノ如キ檢出番號ヲ附シ此ノ目錄ト符合セシムルモノトス

米穀検査員被服費補給規程

(明治三十八年六月  
應達第二十九號)

米穀検査員被服費補給規程

第三部 米穀検査所

第一條 米穀検査員ニハ毎年度一人ニ付金參圓以內ノ被服  
費ヲ補給スルコトアルヘシ  
第二條 補給金ノ支給ヲ受ケムトスル者ハ別紙樣式ニ據リ

米穀検査監督上ニ關スル件 缺勤届書提出方ノ件  
請求書ヲ差出スヘシ  
(別紙)

被服費補給金請求書  
一金參圓也

但シ明治何年度分補給金壹人分本行ノ通  
右ハ今般米穀検査員制服新調致候ニ付被服費御補給相成度  
此段請求候也

富山縣米穀検査所何々出張所  
年月日 米穀検査員 何ノ某印  
富山縣知事 氏 名宛

### 米穀検査監督上ニ關スル件

(明治三十八年二月)  
(内米檢發第九二號)

各出張所主任  
米穀検査所長若クハ監督員臨檢ノ際米穀検査ニ關スル件ハ  
勿論事務整理ニ關シ不都合ノ行爲アリト認タル場合ハ推問  
書ヲ發シ理由ノ答辨書ヲ求ムル議可有之且輕少ノ件ニシテ  
將來ノ注意ヲ催シタル事項ハ帳簿ニ記載捺印スヘキニ付豫

米穀検査手簿攜帶心得 八十六  
メ爲御心得此段及通達候也

### 缺勤届書提出方ノ件

(明治三十七年十一月)  
(内米檢發第二七八號)

各出張所  
米穀検査所同出張所處務細則第十四條ニ依ル職員届書ハ每  
月分取纏メ翌月五日迄當所へ提出相成度此段及通達候也

### 米穀検査手簿攜帶心得

(明治三十七年八月)  
(總達第三十八號)

内務部 米穀検査所  
米穀検査出張所  
第一條 米穀検査監督員及米穀検査員職務ニ從事スルトキ  
ハ必ス米穀検査手簿ヲ携帯スヘシ  
第二條 手簿ニハ毎日左ノ事項ヲ記入スヘシ  
一 米穀検査執行ノ概況  
二 出張地名、検査執行場所、検査立會人及同行者氏名、

### 宿泊地旅舎名

- 三 缺勤ノ場合ハ其ノ事實及理由
- 四 前各號ノ外職務執行ニ關係アル出來事ノ要領
- 第三條 手簿ニハ片假名交リ文ヲ以テ記シ簡明ヲ旨トスヘシ其記事ハ塗抹スヘカラス
- 第四條 手簿ハ上司又ハ特命アル官吏ノ閱覽ニ供シタルトキハ認印ヲ受クヘシ
- 第五條 手簿ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其事由ヲ詳具シ速ニ代品受領ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 手簿ハ毎年一月ヨリ十二月マテ之ヲ使用シ翌年一月十日マテニ米穀検査所ニ返納スヘシ但シ解職ノトキハ直チニ返納スヘシ

### 検査手簿記載例改正

(明治四十年九月)  
(内米發第四〇七號)

各出張所主任  
明治三十七年九月二日通達ニ係ル検査手簿記載例別紙ノ通り改正候條此段及通達候也  
何月何日 晴(雨)曇(風)

検査手簿記載例改正ノ件

輸出来検査トシテ所轄内何町(村)等へ出張検査ヲ遂ケ即日歸所(何町(村))旅店何方ニ宿泊ス其検査俵數受檢人員左ノ如シ  
總數何百何十何俵 何某外何十名  
晴(雨)曇(風)

何月何日 晴(雨)曇(風)  
產米検査トシテ受持区内へ出張検査ヲ遂ケ即日歸所ス其検査俵數受檢人員左ノ如シ  
總數何百何十何俵 何某外何十名  
晴(雨)曇(風)

何町(村)輸出者(生産者)何某カ検査済米穀ニ不正ノ行爲アルコトヲ聞知セシニ依リ現場ニ出張シ何某立會ノ上之方取調ヲナシタルニ果シテ何月何日検査済ニ係ル稗(糯)支(精)何十何俵ノ内何俵何々ノ事實アルヲ確認セシニ依リ本人ヨリ始末書ヲ徴シ即日歸所直ニ告發書(違犯通知書)ヲ作製シ主任へ提出セリ  
何月何日 晴(雨)曇(風)

主任ノ命ニ依リ何々ノ事務ニ從事ス  
或ハ  
輸出来(産米)検査報告ノ調製ニ從事ス  
八十七

各出張所吏員名簿記載方ノ件

或ハ

何々ノ爲メ何所へ出張ヲ命セラレタルニ依リ午前(后)何時出發何地ニ着何々ノ件ヲ調査シ午前(后)何時歸所ス

或ハ病氣ニ付執務スルコト能ハサルニ依リ欠勤セリ

或ハ實父母病氣看護ノ爲メ何月何日付許可ヲ得タルニ依リ本日郷里ニ歸省ス

何出張所

△検査員

(1)

月俸何程	△主任	何	某
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

備考 裏面ニ本人ノ原籍地ヲ記入ノ事以下人毎ニ同断

●各出張所吏員名簿記載方ノ件 (明治三十九年四月三米檢發一五〇號)

各出張所主任

今般各出張所へ吏員名簿配給候ニ付記入方左ノ通り一定シ置カルヘク尤モ退職轉職死亡者ノ分ハ終尾ニ存置シ沿革ヲ知ルニ足ルヘキ様取計可有之此段及通牒候也

月俸何程

何

△兼 何 某

(2)

月俸何程			
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

△書記

月俸何程

何

(イ)

月俸何程			
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

△兼 何 某

(ロ)

月俸何程			
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

△助手

月俸何程

月俸何程			
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

何

△何村駐在所

△何村駐在所

月俸何程			
何年何月何日拜命	何々所在勤		
何年何月何日賞與金何程			
何年何月何日何圓ヨリ何圓ニ昇給			
何年何月何日何所ヨリ何所へ轉任			

各出張所吏員名簿記載方ノ件

月俸何程

何 某

以下之ニ倣フ

備考△印ハ朱書

### ●往復書類書式改定方

通牒

(明治三十九年八月三米檢収第三、一五五號ノ二)

### ●各駐在所備付簿冊種類ノ件

類ノ件

(明治三十九年三月三米檢發第一〇七號)

年月日

所長

各出張所主任宛

當所ヨリ發送ノ往復文書ハ其事件名チ一目明瞭ナラシムルノ一方法トシテ其收發番號ノ次ニ件名ヲ掲記シ次ニ年月日發信者、受信者、往復文書等ノ順序ニ記載スル事即チ本書ノ式ニ依ル事ニ決定相成候就テハ爾後貴職又ハ出張所ヨリ發送ノ文書モ此式ニ倣ヒ御取扱有之度此段及通牒候也

各駐在所備付簿冊ノ種類ハ昨年主任會議ノ際注意事項中ニ加ヘ置候ニ付夫々設備相成居候得共出張所ニ依リテ名稱編纂等區々ニシテ一定セサルヤニ認メ候ニ付今後簿冊新調ノ場合ハ左記ニ依リ整理可有之此段及通達候也

各出張所主任

明治何年

文書收件名簿

何米穀檢查出張所

何々駐在所

備考 本簿冊ハ収ト發トノ口座ヲ分チ整理ヲ要ス

明治何年度

證票受拂簿

何米穀檢查出張所

何々駐在所

明治何年度

産米檢査原簿

何米穀檢查出張所

何々駐在所

備考 類編支精トノ口座ヲ分チ記入ヲ要ス

各駐在所備付簿冊種類ノ件



明治何年	何米穀検査出張所
日誌	何々駐在所
明治何年(若クハ以降)	何米穀検査出張所
文書往復綴	何々駐在所

備考 本書首編ニ索引目錄ヲ附スルコト

本書ハ出張所其他ノ諸向ヨリ來リタル書類及駐在所在勤検査員ヨリ報スル報告表等ヲ綴ルモノトス

### 發着簿調製記載方ノ件

(明治三十八年一月内米検査第七五號)

各出張所

左ノ様式ニ依リ發着簿調製所員出張ニ係ル者發共必ス記載可相成此段及通牒候也

追テ二月一日ヨリ實施可相成此段申添候也

### 發着簿様式

出年月日	發主認印	年歸月日	着主認印	事由	官氏名印

備考 發着簿ニ各自其月日ヲ記入シ主任之ニ認印スルモノトス

八寸判紙横線ヲ畫シ使用ノ事  
表紙記載方左ノ通り

明治何年

出張發着簿

米穀検査所何出張所

### 米穀検査原簿等記載方之件

(明治四十年三月三米検査第一〇五號)

各出張所主任

検査原簿等記載方四十年分ヨリ左ノ各項ニ依リ取扱可有之此段及通牒候也

検査原簿

米穀検査原簿等記載方ノ件

一 不合格ノ理由又ハ生産年度ハ備考ノ欄ニ記載スヘシ

一 紙返シニハ總テ月日人名等更ニ記載スヘシ

一 計數ハ左ノ各項ニ依リ記載スヘシ

日計

旬計

月計

通計

一 旬毎ニ記載スヘシ

一 ヶ月毎ニ記載スヘシ

日々記載スヘシ

産米検査原簿ノ件 米穀検査成績表ノ件

九十四

●産米検査原簿ノ件

(明治三十八年九月  
三米検査第六四四號)

各出張所主任

産米検査原簿ノ儀ハ輸出米検査原簿ト同シク各出張所ニ備置キ整理スヘキノ處便宜駐在所ニ於テ整理セシメ候モ差支無之候此段及通達候也

●米穀検査成績表之件

(明治四十年六月  
三米検査第二二五號)

各出張所主任

輸出米并産米検査成績表様式別紙ノ通相定候條(明治四十年六月三日内米發第二四四號ヲ以テ様式改正)左ノ各項ニ照準シ調製相成度候其用紙ハ毎種十二葉宛本所ヨリ交付可致候此段及通達候也

一成績表ハ本年四月分ヨリ毎月調製スルモノトス

一累計表ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテヲ以テ限界スルモノトス

- 一産米検査原簿ハ願人ノ市町村別ニ口座ヲ設ケヘシ
- 一出張所備置ノ證票出納簿毎種ノ殘數ハ輸出来ハ一句毎産米ハ一ヶ月毎ニ記載スヘシ
- 一證票假渡ヲ成ストキハ其帳簿ニ毎種口座ヲ設ケ輸出来ノ分ハ受取人ノ姓名産米ノ分ハ駐在所名ヲ記載シ必ズ受取ノ證印ヲ取受スヘシ
- 一證票ヲ假受セシ向ハ受拂、殘、月日ノ欄ヲ留シ毎種口座ヲ設ケタル受拂簿ヲ製シ輸出来検査員ハ各自ニ産米検査員ハ駐在所ニ備置其都度記入シ旬計、月計、通計ヲ附シ毎月一回以上出張所ノ帳簿ニ照合シ検印ヲナスヘシ
- 一領收證票未使用簿ヲ備置未使用ノ分ハ毎月初日ノ現在ヲ證票一葉毎ニ其發行年月日、番號、金額、願人姓名ヲ列記シ漸次使用ニ隨ヒ使用月日ヲ記入シ滿期無効ニ屬シタルモノハ其月日ヲ朱書シ明瞭ナラシムヘシ
- 一他ノ出張所發行ノ領收證ヲ以テ検査願出ノ分アルトキハ前條ニ準シ帳簿ヲ製シ記入スヘシ

一成績表ハ其月分ハ翌月十五日迄ニ調製シ出張所ニ備置モノトス

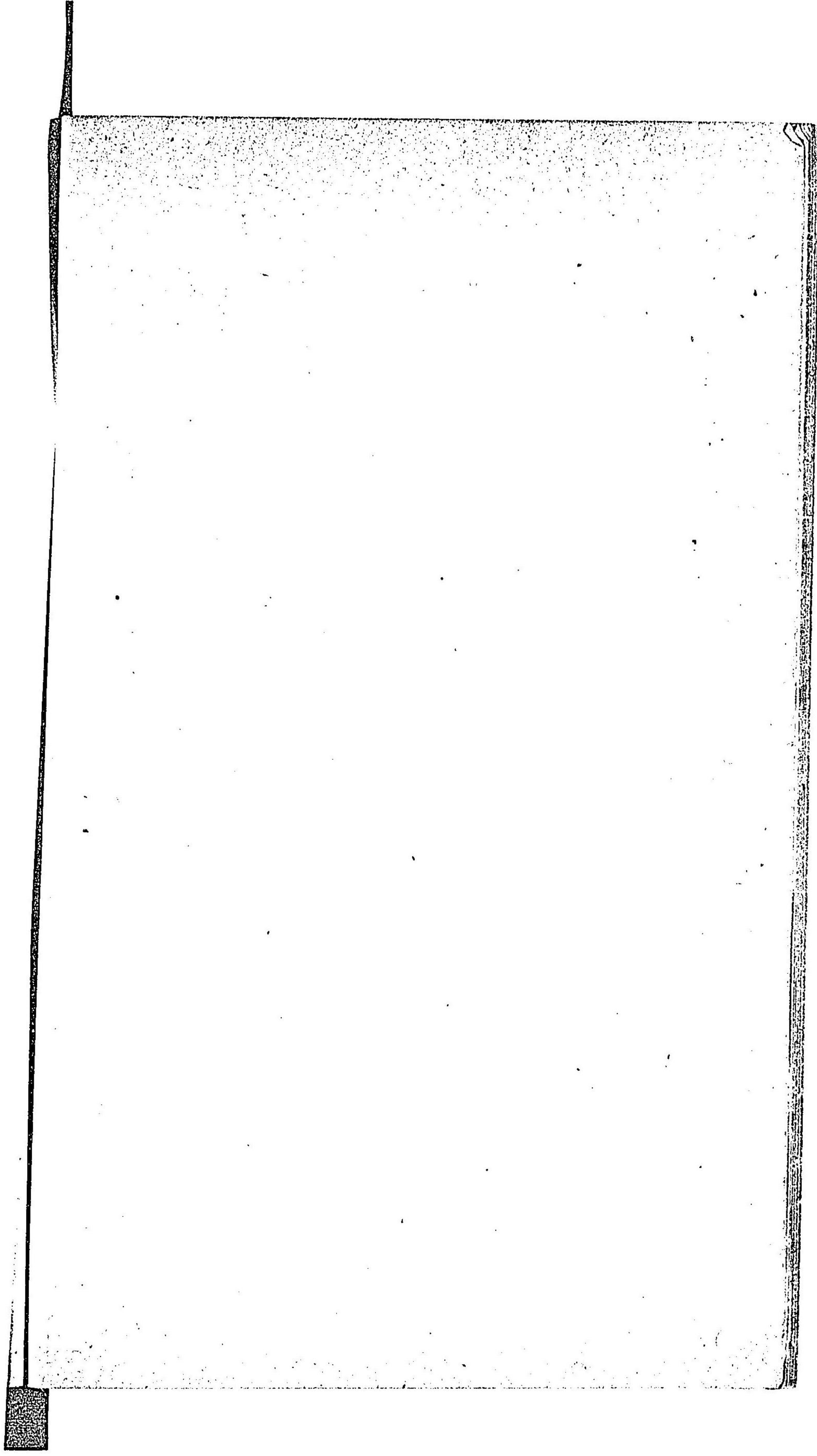
一本成績表ハ十月十五日迄ニ半年表翌年四月十五日迄ニ一年表ヲ製シ本所へ報告アルヘシ

但表式ハ累計表ニ同シ

様式(明治四十一年六月三日内米發)  
(第二四四號ヲ以テ改正ノ分)

米穀検査成績表ノ件

九十五









### ●收穫調查簿ノ件

(明治四十年五月  
三米檢發第一八七號)  
各出張所主任

收穫米等調査簿様式別紙之通相定候條整理心得書ニ依リ夫々整頓可有之候用紙者本所ヨリ交附可致ニ付枚數豫定シ請求相成度此段及通牒候也

(様式)

年度	作付反別	收穫高	消費高	検査		姓名
				總數	不合格	
四〇				〇	〇	
四一				〇	〇	
四二				〇	〇	
四三				〇	〇	
四四				〇	〇	

米收穫高及検査成績調査簿整理心得  
一 調査簿ハ町村毎ニ別冊トシ 大字町村ノ口座ヲ設ケ目札ヲ  
附スヘシ  
收穫調査簿ノ件

一 調査簿ハ産米検査員ニ於テ其所轄内町村ノ分ヲ調製シ駐在所ニ備置モノトス  
一出張所ニハ每町村ノ合計額ヲ調査簿様式ニ準シ調製備置

輸出米仕向地報告ノ件 米作豫想高報告等ノ件

モノトス

- 一 調査簿用紙ハ五ヶ年間連続スルモノトス
- 一 作付反別ノ調査ハ第一町村役場ノ名寄帳ニ基キ各地主ノ反別ヲ調査シ是ニヨリ其地主ニ就キ自作小作ノ別及ヒ小作人ノ姓名卸付反別ヲ開調毎作人ノ反別ヲ合算スルハ最モ正確ナリトス
- 一 作付反別ニシテ數個ノ大字村ニ跨リタルモノハ其大字村ヲ備考ニ列記スルモノトス
- 一 人口ノ欄ニハ常雇人ヲ算入シ其旨備考ニ記載スル者トス
- 一 災害ノ爲メ著シキ凶作ニ罹リタルトキハ其旨備考欄ニ記載シ大字全部ニ涉リタルトキハ合計ノ備考欄ニ記載スルモノトス
- 一 前年ニ比シ作付反別ニ増減アルトキハ其事由ヲ備考ニ明記スヘシ
- 一 作付反別并消費米高ハ毎年七月中調査終了スヘシ但四十年度分ニ限り九月中終了スヘシ
- 一 收穫高ハ毎年十一月中調査終了スヘシ
- 一 検査高ハ左ノ二期ニ區分シ一欄中ニ列記スヘシ
- (一) 新穀産出ノ月ヨリ翌年三月中迄ノ合計後數

九十八

(二) 同年産米ニシテ翌年四月以後ノ分ハ八月中迄ノ合計後數

輸出米仕向地報告ノ件

(明治四十二年七月 米檢發第三三六號)

各出張所主任

輸出米検査出願當日仕向地ノ指定シアルモ其後之ヲ變更スルモノ往々有之爲メニ統計上ニ現出スルモノト實地ノ數量トハ懸隔ヲ生シ需用地ノ状況販路ノ伸縮チ的確ニスル能ハス就テハ米商業者ハ勿論個人及團體ノ販賣ニシテ縣外へ輸出スルモノニ對シ仕向地及其數量(榎權支白)チ更ニ調査シ毎年四月五日限り報告相成度此段及通牒候也

米作豫想高報告等ノ件

(明治四十二年七月 米檢發第三三八號)

各出張所主任

稻米ノ成育状態及收穫ノ多寡ハ検査上至要ノ關係チ有シ候ニ付其開花并ニ成熟ノ景況及收穫高チ豫想シ別紙様式ニ依

リ毎年第一回ハ八月二十五日限り 第二回ハ九月二十五日限り

米作開花ノ景況及米作豫想表

報告相成度此段及通牒候也

町村名	本年豫想高		前年實収高		平年作	
	石	合	石	合	石	合
計						
記事	開花ノ状況ハ早中晩ニ區別シテ記載スルコト					

米作成熟ノ景況及米作豫想表

(毎年九月二十五日限り)

町村名	本年豫想高		前年實収高		平年作	
	石	合	石	合	石	合
計						
記事	成熟ノ状況ハ早中晩ニ區別シテ記載スルコト					

備考 平年作欄ニハ豐年凶作ノ年ヲ除キ五ヶ年間チ平均シタルモノヲ記載スルコト

早中晩區分表ノ件

(明治四十年八月 内米檢發第三三七號)

三十八年九月八日三米檢發第六一七號 通達ノ早中晩區分表ハ三十九年度生産米ヲ限リトシ 四十年産以後毎年八月ヨリ

早中晩區分表ノ件

九十九

各出張所主任



早中晚區分表ノ件 稻ノ銘柄及刈取時期報告ノ件

實地踏査シ十一月三十日限り左ノ調査表ヲ製シ報告可有之

此段及通達候也

早中晚調査表

何都市何町(村)

大字名	作付反別	早	中	晚
		内		
何村				
計				

右及報告候也

年 月 日

所 長 宛

主任 名

### ● 稻ノ銘柄及刈取時期報告ノ件

(明治四十二年七月 米檢發第三三七號)

各出張所主任

稻ノ種類及刈取時期調査表

(毎年九月三十日限り)

稻ノ銘柄ハ從來多種ナルニ加ヘ同質異名ノモノアリテ調査上多岐ニ互ルノミナラス早中晚ノ區分モ亦各地一様ナラサルノ嫌有之就テハ此際之ヲ審ニシ將來ノ施設ニ資セントズルヲ以テ別紙様式ニ依リ毎年九月三十日限り報告相成度此段及通牒候也

稻ノ銘柄	品質ノ良否	刈取時期	反作別付	考
				別名アルモノ又ハ何種ノ轉化シタルモノ等 参考トナルコトヲ記スヘシ

備考 稻ノ各種トモ早中晚(其地方ノ普通稱スル所ニ依ル)ニ區別シ記載スルヲ要ス

### ● 精米搗減并ニ貯藏米ニ對スル損害調査ノ件

(明治四十一年四月 丙米檢發第一〇六號)

各出張所主任

精米搗減并ニ貯藏米ニ對スル損害調査ヲ要シ候ニ付別紙様式ニ依リ期日ヲ誤ラス報告可有之此段及通達候也

精米搗減調査表

市町村 精米場名	機具ノ種類	原料米		搗上精米		搗減歩合	碎屑米歩合	粉糠歩合
		種類	等級	噸量	等級			

備考

○本表ハ毎年三月七月十一月ノ三回ニ調査シ翌月五日マテニ報告スヘシ

○原料米ノ種類ハ粳玄糯玄ノ別ニシテ等級ハ産米檢査ノ等位ナリ且ツ調査ハ一臼(磨擦機械ハ適宜)ニ依ルモ噸量精米搗減并ニ貯藏米ニ對スル損害調査ノ件

精米搗減并ニ貯藏米ニ對スル損害調査ノ件

ハ一石ニ換算記載スヘシ

○精米ノ等級ハ輸出米検査ノ程度ニ依ル

○精米場數ハ一出張所ニ付水車ニ依ル杵搗ノモノハ二ヶ所乃至五ヶ所其他ハ一ヶ所乃至三ヶ所トス

貯藏米ニ對スル損害調査表

市 倉庫 町 名 村	貯藏米俵數	虫害ニ依ル 減量	腐敗ニ依ル 減量	貯藏所ノ良否及構造ノ大要

備考

○本表ハ毎年三月九月ノ二回ニ調査シ翌月五日マテニ報告スヘシ

○貯藏米ハ玄米ニ限ル

○調査ノ方法ハ三月ハ百俵以上九月ハ三十俵以上ヲ貯藏スルモノ、其被害程度ノ最モ甚タシキモノニ就キ調査シ

一出張所ニ對シ三ヶ所乃至五ヶ所ヲ限度トス

○減量ハ一倉庫ニ付三俵乃至五俵ヲ調査シタルモノヲ平均シタル一俵ノ數量ヲ記載スルモノトス

○構造ノ大要ハ倉庫ノ出入口、及窓ノ方向、床ハ板張、漆喰、石敷、葎敷(地上樞等ヲ遍布シタルモノ)類并ニ周圍ニ林木ノ

有無ノ如シ且乾燥又ハ濕潤ノ地質ヲモ記載スルヲ要ス

會計

精米搗減并ニ貯蔵米ニ對スル損害調査ノ件

ハ一石ニ換算記載スルシ

○精米ノ等級ハ輸出米検査ノ程度ニ依ル

○精米場等ハ一出張所ニ付米車一俵ニ付搗ノモノハ二ヶ所乃至五ヶ所其儘ハ一ヶ所乃至三ヶ所トス

貯蔵米ニ對スル損害調査表

市 倉 庫 名 稱	貯蔵米依數	由害ニ依リ減量		貯蔵所ノ長否及構造ノ大要
		虫害ニ依リ	鼠害ニ依リ	

備  
考

○本表ハ毎年三月九月ノ二回ニ調査シ翌月五日ニテニ報告スル

○貯蔵米ハ玄米ニ限ル

○調査ノ方法ハ三月ハ百俵以上九月ハ三十俵以上ヲ貯蔵スルモノ、ニ依リ程度ノ最モ甚タミキモノニ就キ調査シ

一 出張所ニ對シ三ヶ所乃至五ヶ所ヲ限度トス

○減量ハ一倉庫ニ付三俵乃至五俵ヲ調査シタルモノノ平均シタリ一俵ノ數量ヲ相減スルモノトス

○構造ノ大要ハ倉庫ノ出入口、窓ノ方向、床、板張、漆喰、石敷、葦敷(地上鋪等ヲ指シテ)類并ニ周圍ニ林木ノ

有無ノ如ク且乾燥又ハ濕潤ノ地質等ニ至リテ減量ノ大要ス

# 會 計

**富山縣米穀檢查所職**

**員俸給表** (明治三十七年七月) (縣令第三十八號)

職名	俸給
所長	五拾圓以上
監督員	貳拾五圓以上
檢查員	拾圓以上
書記	八圓以上

**米穀檢查員及米穀檢查所書記俸給支給規則**

(明治三十九年十二月) (縣令第五十五號)

- 第一條 米穀檢查員及米穀檢查所書記ノ月俸ハ、毎月末日ニ支給シ、休日ニ當ルトキハ繰上トス
- 但シ退職及死亡ノトキハ其時々支給ス
- 第二條 月俸ハ、新任及増階減俸ノ場合ニ於テハ、其翌日ヨリ退職ノ場合ニ於テハ、其當日マテ日割チ以テ支給ス

富山縣米穀檢查所職員俸給表

米穀檢查員及米穀檢查所書記俸給支給規則

但シ在職中死亡シタル者ニハ其全額ヲ支給ス

第三條 新任者就職前退職死亡ノ場合ニ於テハ俸給ヲ支給セス

第四條 本令ニ定ムルモノ、外ハ明治三十三年三月富山縣令第十八號俸給手當支給規則ニ依ル

**米穀檢查手續料納付**

(明治三十八年七月) (縣令第三十二號)

**手續**

- 第一條 米穀檢查手續料ハ、檢査出願前、米穀檢査出張所在勤縣出納吏ニ納付シ、其ノ領收証票ヲ受ケヘシ
- 第二條 領收証票ハ、檢査願書ノ餘白ニ貼付シ、願而名下ノ印ト同一ノ印ヲ以テ証票ノ上部ト下部トニ願面ヘ掛ケ消印スヘシ
- 第三條 納付シタル手續料ハ、何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス
- 第四條 領收証票ノ使用期限ハ、發行ノ日ヨリ滿一年限トス
- 第五條 領收証票ニ記載スル金員ノ數字ニハ、一、二、三、十、廿、卅、ノ字体ヲ用フヘカラズ
- 第六條 領收証票ノ様式ハ、別記書式ニ依ルベシ

**附 則**

第六條 本令ハ明治三十八年八月十一日ヨリ施行ス

米穀検査手数料納付手続

第七條 本令施行前既に發行シタル米穀検査手数料領收証票

ハ發行ノ日ヨリ滿一ケ年間効力チ有ス

米穀検査手数料領收証票ハ當地トス  
備考

米穀検査手数料領收証票		第何號	明治何年何月何日
金	何	何	何
入納	何	何	何

米穀検査手数料領收証票	第何號	明治何年何月何日	何	何	何	何
金	何	何	何	何	何	何
入納	何	何	何	何	何	何

取  
扱  
印

米穀検査手数料取扱方

(明治三十八年七月訓令甲第四十三號)

- 第一條 米穀検査出張所ニ縣出納吏ヲ置キ手数料ノ收納ヲ取扱ハシム
- 第二條 縣出納吏検査手数料ノ納付ヲ受ケタルトキハ式ノ如ク領收証票ニ金額納人名發行年月日番號ヲ記入捺印シテ納入ニ交付シ原符ハ之ヲ留置クヘシ
- 第三條 番號ハ年度毎ニ之ヲ改ムヘシ
- 第四條 縣出納吏ハ第一號書式ノ現金出納簿ヲ備ヘ料金ノ出納ヲ登記スヘシ
- 第五條 收納シタル手数料ハ隨時第二號書式ノ拂込書ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ムヘシ但シ甲月分ト乙月分トヲ混同シテ拂込ヲ得ス
- 第六條 收納金額百圓ニ達シタルハ二日以上留置クコトヲ得ス
- 第七條 米穀検査出張所詰縣出納吏ハ第三號書式收納報告

米穀検査手数料取扱方

- 第八條 書ヲ製シ每一ケ月分ヲ翌月五日以内ニ常廳ニ差出スヘシ
- 第九條 検査願書ニ貼付シタル手数料領收証票ハ調査ノ上消印スヘシ
- 第十條 検査願書ニ貼付シタル領收証票ハ之ヲ原符ニ對照シ何年何月何日使用済ト付記シ主任認印スヘシ
- 第十一條 米穀検査出張所ニ於テハ其出張所以外ノ縣出納吏ニ於テ發シタル領收証票ヲ貼付シテ検査ヲ出願シタルモノアルトキハ第四號書式ニ依リ每一ケ月分ヲ翌月五日迄ニ其ノ發行シタル縣出納吏ニ報告スヘシ
- 第十二條 前項ノ報告ヲ受ケタル縣出納吏ハ該報告ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十三條 縣金庫ニ於テ第五條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ縣知事ニ報告スヘシ
- 第十四條 領收証票用紙ニ押捺スル縣出納吏ノ印ハ左ノ離形ニ依ルヘシ



徑七分



(第三號書式)

明治何年度

明治何年何月分米穀検査手数料収納報告書		
摘要	金額	備考
第何號ヨリ第何號ニテ		前月拂込未済何程 本月中領収何程 計何程
		本月中拂込何程
		差引拂込未済何程
明治何年何月何日		
何穀米検査出張所		
縣出納吏印		
富山縣知事何某殿		

(第四號書式)

何月分米穀検査手数料領収證票使用済報告書

發行年月日	番號	納付人名	金額	受檢出願月日
		明治何年何月何日		
		何米穀検査出張所印		
		何米穀検査出張所宛		

米穀検査手数料領收證票再發取扱方

百十

### 米穀検査手数料領收證票再發取扱方

(明治三十八年一月) 訓令甲第三號

米穀検査所 米穀検査出張所  
米穀検査出張所在勤 縣出納吏 縣金庫

第一條 米穀検査手数料領收證票ヲ滅失又ハ紛失ノ故ナシテ再渡方申出ツルモノアルトキハ事實ヲ審査シ相違ナシト認ムルトキハ更ニ領收證票ヲ調製シテ之ヲ交付シ滅失又ハ紛失ノ證票ハ無効トス但シ紛失ノモノハ再渡請求書ニ警察官署へ届出濟ノ旨ヲ記載セシムヘシ

(書式)

米穀検査手数料證票再發通報

納人住所氏名	無効	證票	再發
事	故	額	年
月	日	番	號
年	月	日	番
年	月	日	番

第三條 領收證票ヲ再發シタルトキハ書式ニ依リ各米穀検査出張所へ通報スヘシ

第四條 米穀検査出張所ニ於テ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ該報告書ハ別ニ編綴シ置キ該滅失又ハ紛失ノ證票ニ相當スル證票ヲ貼付シテ受檢ヲ出願スルモノナキヤ否ヤヲ注意スヘシ

第五條 紛失ノ申出アリタル證票ヲ發見シタル旨申出ツルモノアルトキハ該證票ヲ取立テ適宜之ヲ棄却スヘシ

第六條 滅失又ハ紛失ノ申出アリタル證票ヲ貼付シテ受檢ヲ出願スルモノアルトキハ事實ヲ詳查シ該願書ハ却下シ領收證票ハ適宜棄却方取計フヘシ

但シ犯罪ノ證憑物件トシ其他必要アルトキハ相當ノ處置ヲ爲スヘシ

前項ノ取扱ヲ爲シタルトキハ直ニ其願末ヲ米穀検査所長ニ報告スヘシ


右ノ通常所ニ於テ發シタル米穀検査手数料領收證票無効ニ歸シ再發致候條此段及通報候也

何々米穀検査出張所

(何々縣金庫)

年 月 日  
何米穀検査出張所宛

### 米穀検査所職員旅費手當支給規則

(明治三十七年六月) 廳達第二十八號

第一條 米穀検査所職員ノ出張旅費ハ左ノ表ニ依リ之ヲ支給ス

但シ旅費支給ノ方法ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則ヲ準用ス

區別	汽車賃(一哩ニ付)	船賃(一海里ニ付)	車馬賃(一里ニ付)	宿泊料(一夜ニ付)	日當(一日ニ付)
所長	四錢	四錢	拾五錢	壹圓	五拾錢
監督員	參錢	參錢	拾貳錢	八拾錢	四拾錢
検査員書記	參錢	參錢	拾貳錢	七拾錢	參拾錢

米穀検査所職員旅費手當支給規則

百十一



領収證票用紙取扱方ノ件 無効領収證票報告ノ件

第二條 出張所在勤検査員ニシテ検査事務ノ爲メ其管内ニ出張シタルトキハ左ノ區別ニ依リ月額旅費ヲ支給ス  
但シ所長ニ限リ第一條ノ汽車、汽船、車馬賃ヲ支給ス

職名	月	額
出張所主任検査員	拾	五
検査員	拾	貳
		圓

第三條 月額旅費ヲ支給スルニ當リ旅行日數一ヶ月ニ滿タサルトキハ月額三十分ノ一ノ割合ヲ以テ出張日數ニ依リ支給ス

第四條 駐在所在勤検査員其管内ノ出張ニ對シテハ旅費ヲ支給セズ

附則

第五條 本則ハ明治四十二年五月一日ヨリ之レヲ旅行ス

### 領収證票用紙取扱方ノ件

(明治四十一年九月内米發第三七〇號)

各出張所主任

検査手数料領収證票綴用紙ニ縣出納吏ノ職印ヲ押捺シ所定ノ文字ヲ記入スルトキハ米穀検査手数料トシテ有價物ト見做サレ候ニ付他ノ用紙ト異リ慎重ノ取扱ヲ要スル處出張所中ニハ年度替リ目ノ際小冊ノ餘白川紙殘存スルニ拘ハラス何等手續ヲモ爲サスシテ其儘綴シアル向有之候就テハ爾來左記ニ依リ取扱方一層御注意相成度會テ事務檢閲ノ際口達シタル次第モ有之候得共爲念此段及通牒候也  
一 書損シタルモノハ消印ヲ押捺シ事由ヲ記載シ置クヘキ事  
一 年度替ノ際殘存スル餘白用紙ハ何枚不用ト記載シ消印押捺スヘキ事

### 無効領収證票報告ノ件

(明治三十九年四月三米檢發第一二六號)

各出張所主任

三十八年七月縣令第三十二號米穀検査手数料納付手續第三條第二項領収證票ノ使用期限ヲ經過シ効力ヲ失フタルモノ有之候ヘハ爾今毎月分ヲ前月十日(明治四十一年四月二十六日)期日訂正ス迄

ニ左記様式ニ據リ當所へ報告可有之此段及通達候也

無効領収證票報告

領収證票番號	發行年月日	金額	納人氏名
何號	年月日	何程	何某

右及報告候也

年月日

所長宛

主任名

### 証票受拂簿記入方ノ件

(明治三十九年四月三米檢發第一五三號)

各出張所主任

證票受拂簿ハ三十八年三月内米檢發第一八三號ヲ以テ通達致置候得共今般簿式ニ改メ候條本年四月一日分ヨリ左記ノ各項ニ照準記入シ整理可有之此段及通達候也  
追テ本簿ハ出張所而已ニ備付ケ駐在所ノ分ハ從來ノ通りニ有之候此段申添候

證票受拂簿記入方ノ件

一 輸出来ノ部

- (イ) 白色、青色、赤色ノ口座ヲ設クルコト
- (ロ) 繰越高アルトキハ摘要ニ前年度ヨリ繰越高トシ受并ニ殘ニ其數ヲ記入スルコト
- (ハ) 本所及他ノ出張所ヨリ現品ノ送付ヲ受ケタルトキハ摘要ニ記シ受ニ其數ヲ記入スルコト
- (ニ) 返納ノ場合ハ摘要ニ記シ受ノ部ニ其數ヲ朱記減額スルコト
- (ホ) 拂ニハ假渡ノ數ヲ記入セス毎日仕拂ノ實數ヲ掲記スルコト(検査員三人ナラハ其仕拂ヲ合算シタル數)
- (ヘ) 證票缺乏等ノ理由ニヨリ他ヘ代用シタルトキハ摘要

證要受拂簿記入方ノ件

要ニハ何々へ代用ノ旨ヲ記入スルコト

(ト) 改倭又ハ再審ノ爲メ仕拂シタルトキハ摘要ニ其旨ヲ記シ拂ノ部ニ其數ヲ朱記スルコト

(チ) 白紙、毀損、不足數ハ一ヶ月分宛取調ヘ摘要ニ其旨ヲ記シ拂ノ部ニ其數ヲ朱記スルコト

(リ) 過剰ノ證票アリタルトキハ發見ノ當時ヲ以テ摘要ニ其旨ヲ記シ過剰相當ノ數ヲ受ニ記入スルコト

(メ) 月末ニハ月計累計ヲ記入スルコト  
ニ産米ノ部

(一) 受、拂、殘下ノ各部ニハ白、青、赤ト記入スルコト

(二) 拂ニハ假渡ヲ記入セス駐在所毎ニ一ヶ月分ノ仕拂實數ヲ計算列記シ其駐在所名ヲ摘要ニ記入スルコト

(三) 其他ハ輸出ノ例ニ同シ

(様式)

證票受拂簿

(輸出ノ部)

月	日	種	源	受	拂	簿	簿
				一	一	一	一
				二	二	二	二
				三	三	三	三
				四	四	四	四
				一	一	一	一
				二	二	二	二
				三	三	三	三
				四	四	四	四

(産米ノ部)

月	日	種	源	受	拂	簿	簿
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤
				白	青	赤	赤

共用物品交付簿  
調製記載方ノ件

(明治三十八年二月  
内米檢發第八五號)

共用物品交付簿

交	付	品	目	數	量	返	納	事	由	受	取	者	職	氏	名	印
年	月	日				年	月	日								

備考 用紙八寸罫紙ニ横線ヲ畫シ使用ノ事

返納年月日記入ノトキハ共用物品取扱主任之ニ認印ヲナス事

從來交付ノ分ハ此際整理ノ事

各出張所主任

爾今左ノ様式に依リ共用物品交付簿ヲ調製シ交付并ニ返納ノ時々相當記入ヲナシ受渡整理可相成此段及通達候也

共用物品使用簿記入  
方ノ件

(明治三十八年八月  
三米檢發第五八六號)

各出張所主任

物品會計規則第二十條ニ基ク共用物品取扱主任ノ共用物品

共用物品交付簿調製記載方ノ件 共用物品使用料記載方ノ件

使用簿并ニ概算渡ヲ受ケタル取扱者ノ出納簿ハ品目毎ニ其受拂現在ヲ左ノ様式ニ依リ記入シ取扱者交替シタルトキハ最終記帳ノ末ニ年月日ヲ記シ前任取扱者署名捺印シ現品ト共ニ之ヲ後任者ニ引繼キ不都合無之様整理方取計可有之此段及通牒候也

共用物品使用簿記載方ノ件

共用物品使用簿

卓 (何々)

年月日	受	入	拂	出	現	在	摘
何年何月何日	何	脚	何	脚	何	脚	本所ヨリ受入 何出所へ拂出
(交替シタルトキノ例)							
何年何月何日	何	前	取	扱	主	任	何 某 <sup>㊦</sup>

概算渡物品出納簿  
炭 (油若クハ郵便切手ノ類)

年月日	受	入	拂	出	現	在	摘
何年何月何日	何	升	何	合	何	升	何某ヨリ買入ノ分受入 何某へ拂出
(交替シタルトキハ)							例前ニ同シ

郵便切手受拂簿調製ノ件  
(明治三十八年三月  
内米検査第一八九號)

各出張所主任  
出張所備置郵便切手受拂簿様式區々一定セス調査上差支候  
條爾今別紙様式ニ據リ調製可相成此段及通達候也

(表紙)

明治何年度

郵便切手受拂簿

富山縣米穀検査所  
何出張所

(様式) 受拂ノ部

月	日	受		拂 (月計)		月	末
		金額	種類 枚數	金額	種類 枚數		
一月	四日	七八五	三錢二十枚 端書十一枚	六五	三錢二十枚 端書十一枚		
	二十日	三〇〇	三錢十枚 端書十一枚	七五〇	三錢二十枚 端書十一枚		
計		一、〇八五	三錢三十枚 端書二十一枚	八一五	三錢二十一枚 端書十二枚	二七〇	三錢九枚

郵便切手受拂簿調製ノ件

郵便切手使用證明書式ノ件

(様式) 拂出内訳ノ部

月日	金額	種類	枚数	種別	量目	件名	受信者	発信者
一月四日	三〇	三錢	一枚	一種	三匁	旬報送付ノ件	本所	主任
七日	一五	端書	一枚	二種		何々ノ件	何出張所	何出張所
二十日	七五〇	端書	二十枚			何出張所渡		
三十日	二〇	一錢	二枚	四種	二十匁	何々ノ件	何出張所	何出張所
計	八一五	三錢 一錢 端書	三十二枚 二枚 十二枚					

●郵便切手使用證明書式ノ件

(明治三十八年七月三米檢發第五六二號)

郵便切手使用證明書式ノ件客年九月十九日内米發第九四號

第一號様式

郵便稅使用證明書

一何程

(前年度)(前月)ヨリ越高

ナ以テ及通達置候處證憑書類トシテ聊カ缺クル點モ有之候ニ付爾後左記様式ニ據リ郵便ト電信ヲ區別シ稅額欄ニ記入スヘキ金員ノ字ハ可成數字ヲ避ケ明確ニ記載毎月之ヲ證明シ翌月五日限リ縣出納吏へ提出方取計可有之此段及通達候也

一何程

計何程

一何程

内何錢切手何枚  
何錢何々端書何枚

何々何枚

何月受取高

何月中使用高

發送月日	稅額	量目	種類	摘要	發送先	発信者
何月何日	何錢	何匁	書留	何々ノ件照會	何々所	官姓名
何月何日	何錢	何匁	常便	何々ノ令達	郡市町村 何何某	何所
何月何日	何錢	何匁	小包			

一何程

内何錢切手何枚  
何錢何枚端書何枚  
何々何枚

右之通り相違無之候ニ付證明候也

殘高

何出張所  
取扱主任 職姓名 ㊟

縣出納吏 官職姓名宛  
第二號様式

郵便切手使用證明書式ノ件

郵便切手使用證明書式ノ件

電信料使用證明書

(前年度(前月)ヨリ越高)

何月受取高

何月中使用高

一何程

此譯

發送月日	稅額	字數	種類	摘要	發信先	發信者
何月何日	何拾錢	何拾何字	常信	何々ノ件	何々所	官姓名
何月何日	何拾錢	何字	親至 展急	何々ノ件	何所 何某	何々所

一何程

內

殘高

(以下記載方ハ郵便ノ例ニ同シ)

第三號樣式

(郵便(電信料)使用セサル義ニ付報告

前月ヨリ越高

一何程

一何程

計 何程

本月受取高

右何月中使用高相違無之候ニ付報告候也

年 月 日

縣出納吏官 職姓名宛

何出張所

取扱主任 姓

名

### 備品消耗品受拂整理簿調製ノ件

(明治三十八年八月  
三米檢發第五八五號)

各出張所主任

出張所備付ノ備品臺帳并ニ消耗品受拂簿調製方客年九月内  
米檢發第九七號ヲ以テ通牒置候處右ハ整理上ノ都合ニ依リ  
左記樣式ニ改メ候條品目毎ニ記入シ此際整理方取計可有之  
此段及通牒候也

備品受拂整理簿  
椅子(書箱等)

共用品専用品共

年 月 日	受 入	拂 出	現 在	摘 要
何年何月何日	何脚	何脚	何脚	本所ヨリ受入 破損ニ付本所(拂出)
\\ \\ \\	\\ \\ \\	\\ \\ \\	\\ \\ \\	\\ \\ \\

備品消耗品受拂整理簿調製ノ件

不用ニ屬スル物品賣却ノ件 検査員等就職報告ノ件

百二十二(終)

消耗品受拂整理簿  
八寸全紙 (其他何々)

概算渡炭油ハ除ク

年月日	受入	拂出	現在	摘要	領取者
何年何月何日	千 枚	百 枚		本所ヨリ受入	證印
				何検査員拂出	印
					印

●不用ニ屬スル物品賣却ノ件 (明治三十八年十一月三米検査第七〇八號)

各出張所主任

不用ニ屬スル反古空罐ノ類ハ三ヶ月乃至六箇月分チ取廻メ賣却ノ上縣雜收入ヘ編入スヘキ規程ニ有之候ニ付爾來現品ニ送付書ヲ添ヘ當所縣出納吏ヘ送致可有之此段及通達候也  
追テ殊更ニ本品ヲ送致スルトキハ運賃ヲ要シ收支相償ヲサル儀ト被存候ニ付序ノ際回送方取計可有之此段申添候

●検査員等就職報告ノ件 (明治三十九年十二月三米検査第五五二二號ノ二)

各出張所主任

今般米穀検査員及米穀検査所書記俸給支給規則發令ノ結果左記事項ヲ承知致度旨其筋ヨリ申越候ニ付テハ爾後新任者ニシテ就職セサル者アルトキハ毎月二十六日(明治四十年日內米検査第四〇〇)迄ニ報告可有之此段及通達候也  
一、新拜命者ニシテ就職セサルモノ、職氏名  
二、前項報告後就職シタルトキ同上

264  
439

明治四十三年九月十日印刷  
明治四十三年九月二十日發行

富山縣米穀検査所

富山縣米穀検査所  
富山印刷株式會社  
富山印刷株式會社  
富山印刷株式會社



禁電



富山県米穀検査所令規類聚

264  
439

C  
14  
46

037714-000-9

CZ-1431-46-01

富山県米穀検査所令規類聚

富山県米穀検査所

M43

BBU-0347

